



富岡製糸場を中核とした 文化観光拠点計画



富岡製糸場を中核とした文化観光拠点計画 目次

1 実施体制	4
2 事務の実施体制	5
3 基本的な方針	6
3-1 現状分析	6
3-1-1 主要な文化資源	6
3-1-2 来訪客の動向	8
3-1-3 他の文化資源保存活用施設との比較	11
3-2 課題	13
3-3 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	15
3-4 地域における文化観光の推進への貢献	19
3-5 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	20
4 目標	21
目標①：富岡製糸場の年間入場者数	21
目標②：富岡製糸場の年間外国人入場者数	22
目標③：富岡製糸場の入場者満足度	23
目標④：観光客向けの新ガイドツアーの実施回数	25
目標⑤：富岡製糸場の売店等の売上げ額	26
5 目標の達成状況の評価	27
6 文化資源保存活用施設	28
6-1 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	28
6-1-1 現状の取組	28
6-1-2 本計画における取組	28
6-2 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	30
6-2-1 現状の取組	30
6-2-2 本計画における取組	31
6-3 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	32
6-3-1 現状の取組	32
6-3-2 本計画における取組	32
7 文化観光拠点施設機能強化事業	33
7-1 事業の内容	33
7-1-1 文化資源の魅力の増進に関する事業	33
事業番号1-① 国宝「繰糸所」展示コンテンツ磨き上げ事業	33
事業番号1-② 国宝「東置繭所」の展示・情報発信コンテンツ磨き上げ事業	33
事業番号1-③ 富岡製糸場と他の構成資産等との価値の磨き上げに係る連携事業	34
7-1-2 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅行客が文化について理解を深めることに資する措置に関する事業	35
事業番号2-① 富岡製糸場の公衆無線Wi-Fi強化事業	35

事業番号2-② インバウンド体制構築事業	36
事業番号2-③ 富岡製糸場の音声ガイド及び案内・説明板等の多言語表示強化事業	36
事業番号2-④ 観光客向けの新たなガイドツアー造成事業	37
事業番号2-⑤ 史実に基づく工女袴着用体験事業	37
事業番号2-⑥ 「富岡製糸場と絹産業遺産群」構成資産の展示強化・連携事業	38
事業番号2-⑦ Japan Silk Net（仮称）（全国シルク関連遺産ネットワーク）構築事業	39
7-1-3 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	40
事業番号3-① 「富岡製糸場と絹産業遺産群」を巡る発型観光プラン構築事業	40
事業番号3-② 電動バスの利便性強化事業	40
事業番号3-③ 旧葦塚製糸場における富岡製糸場に関わる説明強化事業	41
7-1-4 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業	41
事業番号4-① 県内温泉地宿泊施設等との富岡シルク製品を活用したコラボレーション事業	41
7-1-5 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	42
事業番号5-① 富岡市観光HP（富岡製糸場HP）のリニューアル事業	42
事業番号5-② 国内外へのプロモーション戦略事業	43
事業番号5-③ 西置繭所多目的ホールのユニークベンチャーとしての活用推進事業	43
事業番号5-④ 誘客シナリオの製作	44
7-1-6 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	44
事業番号6-① 新たなガイドツアーの待合及び出発場所としての利便性向上事業	44
事業番号6-② 東置繭所の売店及びシルクギャラリーの整備事業	45
7-2 特別措置に関する事項	46
7-2-1 必要とする特例措置の内容	46
7-3 必要な資金の額及び調達方法	47
8 計画期間	49

表紙写真〔上〕 富岡製糸場 国宝「東置繭所」
〔下〕 富岡製糸場 国宝「繰糸所」

富岡製糸場を中核とした文化観光拠点計画

1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	富岡製糸場	所在地	群馬県富岡市富岡 1-1
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	富岡市	所在地	群馬県富岡市富岡 1460-1
	代表者	市長 榎本 義法		
	地方公共 団体内部 の役割	【主担当部署】 世界遺産観光部 富岡製糸場課（文化資源保存活用）、観光交流課（観光振興） 【連携する部署】 富岡製糸場総合研究センター（調査研究・史料保管）、まちなかにぎわい課（地域振興） 教育委員会文化財保護課（文化財保護）		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	群馬県		群馬県前橋市大手町 1-1-1
	代表者	知事 山本 一太		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 富岡市観光協会	所在地	群馬県富岡市富岡 1151-1
	代表者	会長 武井 哲郎		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	公益財団法人 群馬県観光物産国際協会	所在地	群馬県前橋市大手町 2-2-1 群馬会館 3 階
	代表者	理事長 市川 捷次		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 富岡シルク推進機構	所在地	群馬県富岡市富岡 33-4
	代表者	理事長 高橋 純一		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制

文化資源保存活用施設の設置者及び管理運営者
富岡製糸場を中核とした文化観光拠点計画責任者及び文化観光推進事業者

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場課 観光交流課

【役割】

- ・計画全体の取りまとめ、富岡製糸場保存活用の基本構想や関連する他の計画との調整。
- ・計画の作成及びPDCAによる運用管理。富岡製糸場の文化観光拠点としての磨き上げ。

文化観光拠点に資する事業、観光振興・地域振興に関する事業の推進。

文化観光推進事業者

群馬県地域創生部

文化振興課

群馬県立世界遺産センター

【役割】

世界遺産構成市町との連携・調整、計画運用における助言・指導

連携する自治体部署

富岡市世界遺産観光部

富岡製糸場総合研究センター

まちなかにぎわい課

富岡市教育委員会 文化財保護課

【役割】

- ・拠点計画の作成・運用管理における観光振興、地域振興に関する支援、および旧富岡倉庫・旧葎塚製糸場等まちなかの文化資源に係る事業の実施

文化観光推進事業者

一般社団法人富岡市観光協会

【役割】

- ・計画対象のうち、誘客プロモーション事業や観光客向けのガイドツアー事業、まちなか回遊性向上に向けた事業、インバウンド向けの体制づくり事業等の実施。

文化観光推進事業者

公益財団法人 群馬県観光物産国際協会

【役割】

- ・計画対象のうち、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」を巡る発型観光プラン構築事業の実施。

文化観光推進事業者

一般社団法人富岡シルク推進機構

【役割】

- ・計画対象のうち、文化資源に係る工芸品・物販の販売提供、県内観光施設等との連携事業等の実施。

3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

- ・富岡製糸場【世界遺産、史跡、国宝・重要文化財建造物（繰糸所、東置繭所、西置繭所ほか6件）】
- ・周辺の文化資源：旧富岡倉庫、世界遺産センター、旧葎塚製糸場

■文化観光拠点の種類【世界文化遺産、産業遺産】

■文化資源の種類【歴史的建造物、史跡、文化施設】

■文化資源の時代区分【近代】

(1) 拠点となる文化資源の概要

本計画の拠点施設となる世界遺産富岡製糸場は、群馬県の南西部に位置し、約 55,000 平方メートルの敷地に 100 棟を超える建造物からなる、日本を代表する近代産業遺産の一つである。近くには高速道路（上信越自動車道）の IC もあり、東京から 2 時間ほどであることから首都圏からのアクセスは良い状況にある。



1872 年（明治 5 年）に明治政府が先進的な器械製糸技術を国内に広めるために設立した官営模範製糸工場で、1893 年（明治 26 年）に民営化されて以降、経営主体が変遷したものの 1987 年（昭和 62 年）に操業を停止するまで 115 年間一貫して生糸を作り続けた製糸工場である。官営当初期の主要建造物を含め操業停止の状態で工場全体がほぼ保存されており、2005 年（平成 17 年）に富岡市が所有管理を引き継いだ。

同年、敷地全体が国史跡に指定され、翌年、繰糸所、東置繭所、西置繭ほか 6 つの建造物が重要文化財に指定された（繰糸所、東置繭所、西置繭所は 2014 年に国宝指定）。2014 年（平成 26 年）にはユネスコ「世界遺産一覧表」に「富岡製糸場と絹産業遺産群」として記載され、他の 3 つの蚕糸業に係る文化遺産とともに世界文化遺産となり、富岡製糸場は日本のみならず世界的にも貴重な文化遺産となった。

敷地内には、明治初期から昭和後期までに建てられた様々な機能を持つ建造物が、細分すると 100 棟以上ある。敷地の中心部分に主に生糸製造に関わる建造物が、その周囲に宿舍や食堂、診療所、教育施設など従業員の生活に係る施設が建ち並ぶ。



東置繭所



西置繭所

富岡市が所有管理を開始以降、一般公開を開始した。場内に管理事務所を設け、維持管理、保存活用を行っている。この業務は、現在、富岡市役所の富岡製糸場課及び富岡製糸場総合研究センターの職員 21 名で行っている。職員には、文化財建造物の保存活用や調査研究、教育普及に対応するため建築技師や学芸員、国際交流員が含まれる。そのほか、場内の案内、看視、見学券販売、団体予約対応、清掃、救護等のおもてなし業務は外部委託している。



繰糸所

富岡製糸場の維持管理や保存活用工事は、文化財指定を受ける際に策定した保存管理計画と整備活用計画に基づいて実施している。保存整備工事においては、重要な方針を有識者からなる委員会に諮り、文化庁や群馬県と協議を行い実施している。敷地全体が史跡であり、地下遺構の保護が求められるため、保存整備工事においては慎重に発掘調査を行い地下遺構を損ねないかたちで工事を進めている。

富岡製糸場の維持管理、運営に係る費用は、保存整備事業費（市負担分）を含めて、見学料収入でまかなっている。年間見学者数は、平成 26 年度の世界遺産登録年の約 133 万人をピークに減少傾向にあったところ、コロナ禍により大幅に減少（令和 3 年度は約 22 万人）したため、富岡製糸場の財政状態は現在、非常に厳しい状況にある。

富岡製糸場の公開状況は、外観見学が主となっており、解説員によるガイドツアーを 1 時間に 1 本程度行っている（有料／観光シーズンは増便）。建物内部を公開しているのは国宝の 3 棟と社宅群の 1 棟で、繰糸所では創業にあたり導入した繰糸器械（復元機）の展示と実演を行っており、社宅では伝統的な座繰り器を使った糸取り体験や、生きたカイコの展示（通年）を行っている。また、創業に際して導入された蒸気エンジン（復元機）を実際に蒸気で動かす動態展示も行っている。

2020 年（令和 2 年）に国宝「西置繭所」の保存整備工事が完了し、1 階には資料展示室と多目的ホールを耐震補強用の鉄骨を骨組みとし、壁・天井の素材にガラスを用いたハウス・イン・ハウス手法で整備した。2 階は、繭倉庫としての景観、雰囲気を出るだけ損ねないように補強修理し、繭倉庫としての歴史や建物の特徴を伝える展示などを行っている。また、楽しみながら西置繭所を見学してもらえるように声優や浪曲師による音声ガイドアプリを制作し、見学者各自のスマートフォンにダウンロードして利用いただいている。

(2) 富岡製糸場の歴史的・文化的価値

群馬県は伝統的に養蚕製糸が盛んな地域で、富岡が官営模範製糸工場の設立場所に選ばれた理由のひとつとして良質な原料繭の産地であったことが挙げられる。さらに利根川水系の水運としての利用、また、広大な工場用地が風通しの良い高台に確保できたことなど、いくつか条件がそろい「富岡製糸場」の誕生となった。

19 世紀後半、世界の器械製糸技術においてはフランスとイタリアが先進的であった。横浜居留地に、ポール・ブリュナという生糸製造に通じたフランス人生糸検査人がいたこと、また、大規模な工場建設においては、横須賀にフランス海軍の協力指導により建造された横須賀製鉄所（軍艦製造・ドック）が既にありモデルとなる工場建築があったことから、富岡製糸場の設立にあたりフランス人の技術協力が得られ、模範製糸工場の設立にいたった。

富岡製糸場は明治 5 年の創業当初期の主要建造物がよい状態で残されながら昭和 62 年まで操業を続けて、操業停止後も経営企業により維持管理が継続されたことから、官営模範工場としての設立の歴史、意義、そしてその後の日本の製糸業の発展を常にリードし技術革新を続けてきた歴史が、近代製糸技術の最終形が分かる状態で保存されている。日本の近代製糸業はまさしく基幹産業であったので、日本の近代化を支えた重要な産業であり、それを牽引した工場がシステムとして状態よく残っていることは非常に貴重な産業遺産といえる。

世界遺産登録にあたっては、西洋との技術交流による生糸製造における技術革新の顕著な事例として、

また、この技術革新により高価だった絹の大量生産が可能になり世界の絹文化の大衆化に貢献したことが評価された。

(3) 周辺の文化資源の概要

養蚕製糸業が盛んだった富岡のまちなかには、この産業の遺構が残っている。上州富岡駅前の旧富岡倉庫と呼ばれる歴史的建造物は、明治から昭和にかけて、繭を担保とした金融業の施設（倉庫3棟と繭乾燥施設）で、倉庫3棟（煉瓦造、石造、木造）は歴史的建造物として整備され、店舗や文化施設として活用されている。煉瓦倉庫は群馬県立世界遺産センターとして令和2年より公開活用されており、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の歴史と価値を見学者に伝えている。他の2棟には店舗や体験施設が入っていて、観光客や市民に親しまれている。

富岡製糸場の正門近くには、富岡製糸場とゆかりのある、明治9年創業の民間器械製糸工場である旧葎塚製糸場の遺構が保存されている。明治初期の民間器械製糸工場としては、国内で唯一現存する遺構である。歴史的建造物として復原され、令和2年より公開活用されている。内部には解説パネルや出土品が展示され、歴史や価値を伝えている。



旧富岡倉庫（世界遺産センター）



旧葎塚製糸場

3-1-2. 来訪客の動向

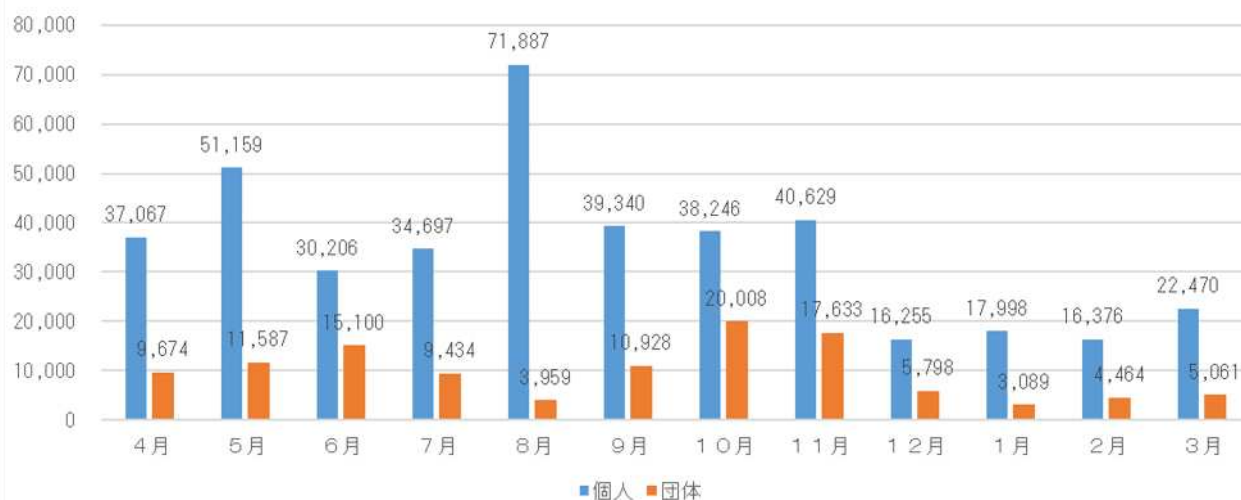
本計画の拠点となる富岡製糸場の年間入場者数は、平成26年度の世界遺産登録年の約133万人をピークに減少傾向にあったところ、コロナ禍により大幅に減少し令和2年度は約17万人であった。令和3年度はやや増加したものの、コロナ禍の終息が見えず観光形態の変化により大型バスツアーによる団体客の復活が期待できない状況であり、インバウンドについてもコロナ禍前の状態への復活時期も見えない。そのようななか、家族や少人数グループによる旅行や教育旅行は戻りつつあり、富岡製糸場の見せ方・伝え方をいっそう魅力的にし、また、効果の高いプロモーション活動を行い、確実に入場者を増やす取り組みが求められている。

富岡製糸場の入場者数は以下のとおり。

富岡製糸場の入場者数の推移（単位：人）

	H29	H30	H31	R2	R3	目標 R8
入場者数	637,288	519,070	442,840	177,419	223,178	450,000
個人入場者数	481,605	406,156	361,231	154,845	190,212	360,000
団体入場者数	155,683	112,914	81,609	22,574	32,966	90,000
外国人入場者数	4,081	5,143	3,761	195	20	4,000
団体受入数(単位：団体)	3,789	2,688	1,908	384	465	2,000

個人と団体入場者（平成29年度から令和元年度にかけての平均）



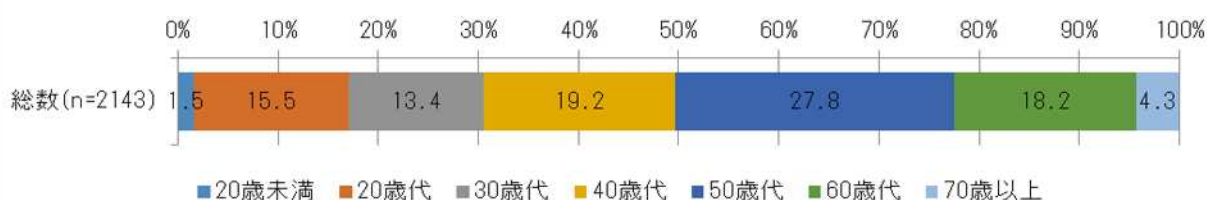
5月（GW）、8月（夏休み）は家族や個人単位の入場者が増える傾向。10・11月（秋の旅行シーズン）は団体客が増える傾向。12月～3月が閑散期となっている。外国人入場者数は年間数千人単位であったが、コロナを契機に落ち込んだままであり、回復の兆しが見えない状況である。

5月、8月は、個人観光客をターゲットとし、秋のトップシーズンには団体客へと、年間にあっても季節ごとにターゲット設定の変更が有効であると考えられる。

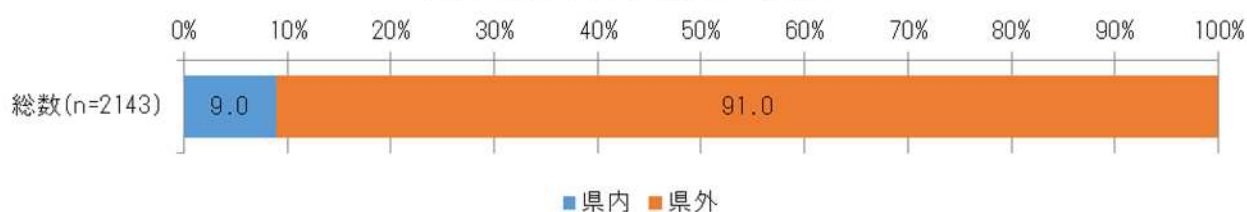
また12月～3月は、外観見学が中心となる富岡製糸場では、気候条件から目的地としての選択肢から外れることもあり得ることから、内覧に注力することにより閑散期でも個人・団体を問わず集客できる要素を持っていることがうかがえる。

コロナウイルス感染症の影響で、まだまだ見通しは明るくないが、世界遺産登録効果による物見遊山的な観光誘客から脱却することが、現在求められている。

年齢別入場者



居住地別入場者（県内・県外）



入場者における都道府県別割合

都道府県名	人数	割合	都道府県名	人数	割合
東京都	603	28.1%	京都府	26	1.2%
埼玉県	332	15.5%	兵庫県	26	1.2%
神奈川県	296	13.8%	静岡県	25	1.2%
群馬県	192	9.0%	新潟県	21	1.0%
千葉県	165	7.7%	奈良県	18	0.8%
茨城県	82	3.8%	北海道	16	0.7%
愛知県	65	3.0%	福島県	13	0.6%
栃木県	56	2.6%	三重県	13	0.6%
長野県	44	2.1%	福岡県	11	0.5%
宮城県	30	1.4%	その他	82	3.8%
大阪府	27	1.3%	合計	2143	100%

※令和3年8月～11月に実施したwebアンケートによる（群馬県実施）

今後、富岡市観光協会においては、首都圏の若年層をターゲットに「レトロ」と「トリップ」を組み合わせた造語「富岡レトリップ」というコンセプトでプロモーション活動を強化していく予定である。以下にプロモーションのキーワードとターゲットを明示する。

【プロモーションキーワード】

① 日本近代化は富岡から

「日本近代化の原点」＝「Made in Japan の原点」の地が「富岡」である。歴史的価値を、富岡市及び周辺地域に来訪している台湾を中心としたアジア地域などを対象として「Made in Japan の原点」の地を巡るとともに妙義エリアとも連携した滞在型観光シナリオを外国人視点に立って開発する。

ターゲット：本県における外国人宿泊者数の7割以上がアジア地域（特に台湾）からであることや、県上海事務所との連携によるアジア地域への情報発信力強化も考慮して、短期的なターゲットについては台湾をはじめとするアジア地域とし、将来的には富岡製糸場と関連の深いフランスを中心とした欧米訪日外国人の誘客も狙う。

2017 年		2018 年		2019 年	
国籍	構成比	国籍	構成比	国籍	構成比
台湾	48.3%	台湾	46.1%	台湾	42.7%
香港	9.4%	中国	11.8%	中国	13.7%
中国	9.1%	香港	9.8%	香港	9.5%
タイ	6.1%	タイ	6.8%	タイ	7.2%
アメリカ	4.4%	韓国	5.0%	アメリカ	4.3%

本県の外国人宿泊者数の国又は地域（従業者10人以上の施設）※出典観光庁「宿泊統計旅行」

② 女性活躍は富岡から

富岡製糸場の操業は、多くの工女によって支えられたことから「女性活躍の原点」となったと考えられる歴史的背景を活かし、国内の女性活躍や登用に積極的に取り組む学校や企業等に向けて女性の社会における自立や活躍をテーマとした研修・セミナー等のプログラムを組入れた誘客シナリオを開発する。

ターゲット：女性活躍関連の活動を行う学校・企業

③技術革新は富岡から

富岡製糸場は、明治5年から昭和62年までの115年間、常に技術革新を続け製糸業の最先端であり続けた。製糸業の衰退により製糸工場としての役割は終えたが、製糸業における「技術革新」の場としての価値が評価され、近代産業遺産として世界遺産に登録された。現在では、文化財建造物の保存整備方法において、革新的な考え方や最新技術を導入し、保存整備が行われていることから、技術革新(イノベーション)をテーマとした誘客シナリオを開発する。

ターゲット：技術革新に取り組む国内企業、技術革新の取組への支援を専門とする組織・団体等

以上の3点をキーワードに、誘客シナリオの開発を進め、今後のプロモーションの柱とする。

◎本市で取り組む観光振興策及び今後展開していく施策

インバウンド対策としては、従前アジア、欧米といった外国人観光客も、世界遺産である富岡製糸場を旅行先として認知し始めたところであるが、新型コロナウイルス感染症拡大により、外国人観光客の来訪は途絶えている。現在は、インバウンド向け情報発信として、外国人への紹介に特化したWebメディアへの記事掲載や、YouTubeへの動画掲載などを実施している。令和3年度に文化庁補助事業で作成した動画は、140,000回再生と注目されている。様々なメディアやデジタルツールを活用した情報発信を強化していくこととしたい。

隣接する安中市、県境をまたぐ長野県軽井沢町と結ぶ、富岡・安中・軽井沢の2市1町観光連携協議会では、軽井沢町が台湾をターゲットに取り組んできたインバウンド招致を、コロナ感染症の動向を見ながら再開する見込みである。

本市も、TOKYO2020に際してはフランス・ミクロネシア連邦のホストタウンとなったものの、選手との交流や文化的交流を進めることができなかった。しかし、国の新たな交流策も展開されることから、新型コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、新たな交流を進めることとしたい。

以上の観光振興策を総合的に展開することで、富岡製糸場の入場者数については令和8年度に45万人を目標とする。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

○近隣の類似する文化資源活用施設との比較

隣市の安中市にある「碓氷峠鉄道文化むら」は、富岡製糸場と同じ近代化遺産である。この施設は一般財団法人碓氷峠交流記念財団により運営されており、公表されている収支報告書によると、近年の鉄道文化むらの事業収入はほぼ横ばい状態にある。コロナ禍の令和2年度についても大幅な減収になっておらず、これは人気アニメとの連携イベントを実施するなど経営努力によるものと思われる。

碓氷峠鉄道文化むらは、歴史的に交通の要衝であった碓氷峠にある。明治初期、碓氷峠に鉄道を敷設する計画が持ち上がり、明治26年にドイツの山岳鉄道を参考にアプト式を取り入れ、26のトンネル、18の煉瓦造橋梁を伴う横川・軽井沢間が開通した。平成9年、長野新幹線開通により廃線となったが、これらの鉄道関連遺産は歴史的価値を認められ、複数の煉瓦造橋梁や変電所を含む施設が国の重要文化財に指定され、廃線跡はアプトの道遊歩道として整備されている。碓氷峠鉄道文化むらはこの遊歩道の出発地点に位置し、碓氷峠にゆかりの深い鉄道車両の展示はもちろん、資料館の見学やミニSLの乗車体験、本物の機関車の運転体験もできる施設となっている。

碓氷峠鉄道文化むらの強み

・不動の厚いファン層の存在

この施設のテーマである「鉄道」については、全国に、老若男女問わず、ゆるぎない鉄道ファンの存在がある。来場者数については社会状況の変化に左右され難いだけでなく、人気アニメなどの社会現象との相乗効果も加われば、さらなる来訪者増加につながる可能性がある。

・体験施設・体験イベントの充実

敷地を周回する蒸気機関車や電気機関車に乗車して楽しめる体験（有料）施設があり、さらに、本物の車両を運転するための体験（実技講習受講）コースもあるなど、鉄道ファンにとって大変魅力的な施設となっている。

・豊かな自然環境

碓氷峠鉄道文化むらは豊かな自然環境に囲まれており、同施設内での鉄道車両の見学や体験だけでなく、「アプトの道遊歩道」の散策や、途中にある温泉施設に立ち寄ることもできる。遊歩道の先には重要文化財の煉瓦造橋梁などもあり、歴史文化に触れることもでき、観光客のニーズにより多様な楽しみ方・過ごし方ができるエリアである。

○碓氷峠鉄道文化むらとの比較における富岡製糸場の文化観光拠点としての弱み

・鉄道のように大きな固定ファン層のあるテーマに基づく文化観光施設ではない。誘客のポイントになるテーマとしては、世界遺産・国宝（文化財）、工場見学（産業遺産）、時代性（明治、大正、昭和など）、シルクといったものが考えられるが、いずれも鉄道のような根強いファン層のあるテーマではない。

世界遺産登録効果が薄れ、さらにコロナ禍で観光客が減少した今、入場者を増加させるためには、アプローチする対象ごとにテーマを設定した効果的なプロモーション活動を継続的に実施することが必要である。

・目玉となる体験施設、体験イベントがない。原料の繭から生糸をとる体験も予約制で行っているが、PR不足で認識されておらず、かつ、体験の受け入れ体制も十分に整っていない。

繭から生糸を繰る（製糸）実演・体験の実施を強化し、入場者へアピールすることが必要である。また、体験の代わりに成りうる、目玉となるインタープリテーション・コンテンツを整備する。また、観光客の個別ニーズに対応できる新たなガイドツアーを設けることなどが必要である。

・富岡製糸場の敷地の外は一般的な住宅・商業地であり、車両の通行も少なくなく、現状、リラックスして散策を楽しめるような状況ではない。

○富岡製糸場の文化観光拠点としての強み

・唯一現存する官営模範工場の見学

明治初期に建設された官営工場で現存するのは、造幣局（大阪）を除くと富岡製糸場だけであり、模範工場としては富岡製糸場だけである。富岡製糸場では官営当初期の主要建造物が状態よく保存されており、見学して回ること、明治初期に政府が殖産興業により国を近代化させようとしていたことを実感することができる。

・日本の近代化を支えた製糸業を牽引してきた工場設備の見学

富岡製糸場は明治 26 年に民営化されるがそれ以降も一貫して製糸工場として稼働し、昭和 62 年に操

業を停止するまで 115 年間生糸を作り続けた。明治 5 年の西洋の先進技術を導入して開業したときから富岡製糸場では製糸技術のフロントランナーとして革新を続けてきた。現在保存されている機械設備類は日本の近代製糸業の最終形を示している。富岡製糸場を深く知ること、技術革新により時代を切り開いていった事業家・経営者や技術者の思いを感じることができる。

・唯一無二の大規模木骨煉瓦造の工場建築の見学

明治初期を中心に建設された「木骨煉瓦造」建築で大規模なものとして現存するのは富岡製糸場だけである。富岡製糸場の木骨煉瓦造は、幕末にフランス海軍の協力で建設された横須賀製鉄所の建築技術の流れを継承するもので、横須賀にオリジナルの木骨煉瓦造建造物は現存しないこともあり、日本が幕末に西洋建築技術を受容した歴史を今に伝える貴重な文化財建造物である。建築史に興味のある人はもちろん、建築に興味の無い人にも、国の威信をかけ国力を挙げて建てられた、国内に類例のない木骨煉瓦造建造物群の魅力を体感してもらう。

・周辺文化資源と連携したまち歩き

富岡製糸場の周辺には、県立世界遺産センターや富岡製糸場とゆかりの深い製糸工場の遺構があるなど歴史的な蚕糸文化に触れられる施設が存在し、公開活用されている。そういったまちなか周辺の文化資源との連携強化により、観光客にまち歩きを楽しんでもらえるよう、一層の連携強化を行う必要がある。

・交通アクセスの良さ

車では上信越自動車道・富岡 IC から約 10 分、鉄道では最寄りの駅から徒歩約 10 分であり、交通アクセスの良い立地である。

3-2. 課題

富岡製糸場は、建造物の保存整備工事費用（本市負担分）を含め維持管理・運営費用を見学料収入で賄っていることから、見学者の減少すなわち見学料収入の減少は、世界遺産富岡製糸場の維持継承の根幹に係わる問題であり、コロナ禍で見学料収入が激減した今、見学者を増やすための取組は最重要課題となっている。しかし、財源に余裕が無いため、その取組みを本格的に実施することができない状況である。

富岡製糸場が位置する富岡のまちは、例えば横浜や金沢のように、まちそのものに集客力のある観光地ではないため、来場者を増やすためには富岡製糸場自体が十分な魅力を備え集客力を高める必要がある。

富岡製糸場は、大小 100 棟を超える建造物群からなり、そのうち 9 つの建造物は国宝・重要文化財である。また、敷地全体が国史跡であるため、国宝・重要文化財に指定されていない建造物もほとんどが文化財としての保存が求められる。これらの建造物は、建築年は明治 5 年から操業停止間近の昭和後期と幅広く、また用途も多種多様なものがある。創業当初の木骨煉瓦造を除けば、多くは木造の建造物である。富岡市では富岡製糸場の保存活用にあたり、保存管理計画と整備活用計画、またインタープリテーション・ガイドラインを策定し、それに基づいて有識者会議に方針を諮りながら富岡製糸場の保存活用を行っているが、文化財建造物の保存修理・整備活用工事は、多額の費用がかかるため、財源不足の今、計画通りに進めることができない状況である。また、時間も要するため、財源が用意できても短期間で実施できる事業ではない。

また、富岡製糸場は明治 5 年から 115 年間、生糸を製造していた工場であるが、昭和 62 年に操業を停止した。機械が止まり労働者も去って 35 年が経つ。「動くもの」が無い状態で、工場で行われていた作業内容や労働者が働く様子を見学者がイメージしやすく伝えるのが難しく、産業遺産としてのインタープリテーション方法を工夫し、だれもが楽しみながら元工場であった富岡製糸場についてよりよく理解してもらえるようにする必要がある。

富岡製糸場の周辺には、歴史的な繭担保倉庫である「旧富岡倉庫」があり、そのなかには群馬県立世界遺産センターが整備されている。また、富岡製糸場の正門近くには、富岡製糸場との関連性が非常に深い明治初期の民間製糸工場の遺構である旧葦塚製糸場があるなど、文化資源がいくつか点在する。富岡地域を含む群馬県には伝統産業である蚕糸業の歴史・文化に関する遺産が多い。そういった文化資源を活用し、観光客のまちなか回遊性を高め、地域経済の活性化につながる取組みをこれまでも行ってきたが、さらに強化するため、誘客力の高い事業を行う必要がある。

課題1【拠点施設の磨き上げ】

財源不足により予定通りに保存修理・整備活用工事が進められず、国宝「繰糸所」と国宝「東置繭所」の本格的な整備がいつ完了するか見えない状況であるが、繰糸所と東置繭所は、2020年に整備が完成した国宝「西置繭所」とならび、富岡製糸場の主要な見どころとなっている。繰糸所と東置繭所の展示解説や情報発信の方法・見せ方を工夫しインタプリテーション力を向上させることで、富岡製糸場の価値と魅力がより伝わり理解が深まるだけでなく、見学者の満足度もあがり文化観光施設としての評価も高まり、見学者増につながる。その結果、見学料収入が増え、財源に余裕が生まれ、保存修理・整備活用工事も推進でき、富岡製糸場の運営はプラス方向の軌道にのることができる。

一方、富岡製糸場は貴重な文化財であるがゆえ、保存活用においては、まず文化財としての価値の保存が第一であり、整備には一定の制限がある。そのようななかで、先進的なデジタル情報通信技術を展示解説に利用すれば、文化財建造物にハード面で負担をかけずに、より魅力的に、そして見学者に楽しんでもらいながら富岡製糸場の歴史や価値を伝えることが可能と考える。

また、工場として操業を停止し、生糸づくりに従事していた労働者もいないなかで、産業遺産としていかに生糸がつくられ、作業が行われていたか、人が働いていたかを、入場者がイメージしやすく伝える工夫が必要である。

課題2【観光客の個別ニーズ、また、インバウンドに対応できるガイドツアーの造成】

現状、富岡製糸場内で実施している解説員によるガイドツアーは、参加料金200円／人（団体は3000円）で、限られた時間（40分間）で、一回30名位まで（コロナ禍では15名）で実施している。内容は、基本的に、富岡製糸場の歴史と価値を適切に正しく伝えることを目的としており、ガイドは研修を修了した解説員が行っている。しかし、観光目的で楽しみながら場内を散策したい、あるいは、希望により個別対応を求める観光客のニーズには応えられていない。また、英語を話せる解説員はわずかなため、インバウンド対応が難しい。これらの要望に応じられる新たなガイドツアーの造成が必要である。

課題3【「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産への周遊促進と周辺の文化資源との連携強化】

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の各構成資産（「田島弥平旧宅」（伊勢崎市）、「高山社跡」（藤岡市）、「荒船風穴」（下仁田町））への来訪者は富岡製糸場の1割に満たない。そのため、各資産において、遺産群としての価値を伝えるためにも、富岡製糸場を拠点にほかの3資産への周遊を促し、世界遺産としての価値やストーリーを理解してもらえるような情報発信・アクセス改善等が求められる。

さらに上州富岡駅近くにある歴史的建造物群「旧富岡倉庫」（群馬県立世界遺産センター含む）と富岡製糸場近くの「旧葦塚製糸場」を、製糸場と併せて回遊してもらうことで、富岡製糸場を含め地域の養蚕製糸の歴史・伝統・文化の一層の理解につながり、地域における文化観光の推進に貢献する。

課題4【県内外の絹業及び蚕糸業に係る文化遺産との連携（4資産以外）】

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、近代日本の絹産業が世界に貢献したことを示す証として世界遺産になったものであり、国内に点在する絹遺産の代表である。群馬県内では、日本遺産「かかあ天下—ぐんま

の絹物語―」（構成文化財 13 件）や「ぐんま絹遺産」（106 件）があり、これらは「富岡製糸場と絹産業遺産群」を支えるものである。また、富岡製糸場の操業と高品質の生糸輸出を支えたのは、各地の絹産業の発展や鉄道網の発達であった。現在も製糸工場が稼働する長野県岡谷市や海外輸出の玄関口であった神奈川県横浜市、さらに群馬・長野地域と横浜を地理的につないでいた八王子地域は「桑都」として古くから絹産業が盛んであった。

こうした生糸生産地や流通拠点、他のシルクをテーマにした日本遺産（「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に会えるまち鶴岡へ」、「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」など）との連携を強化することで、県内外からの来訪者が富岡製糸場とのつながりを理解し、富岡製糸場の維持継承に共感してもらえるように蚕糸業の歴史と価値を伝えるインタープリテーションを行う。

また、富岡製糸場の 115 年間の操業と発展は、日本全国の蚕糸業や絹業に関連する様々な施設に支えられ、関連しあい共存していた。それらの施設の中には現在、文化遺産として保存活用されている施設が少なくない。富岡製糸場の歴史と価値を伝えるインタープリテーションに合わせて蚕糸業・絹業に係る各地の遺産についても情報発信し、全国各地からの来訪者が、富岡製糸場を含めた関連遺産を身近に感じ、理解を深め、維持継承を自分事として捉えてもらえるように、また、各地の関連遺産を訪問してもらえるような取り組みを、企画展や観光事業を中心に実施する。

課題 5 【インバウンド体制づくり】

富岡製糸場および周辺の文化施設等の案内や PR 活動等において、外国人観光客のニーズに対応できる体制（案内人、案内・説明看板、パンフレット、SNS などの情報発信など）を整える必要がある。

課題 6 【誘客のための効果的なプロモーション活動】

誘客のためには積極的な宣伝 PR 活動が欠かせないが、現状、富岡製糸場では、この種の活動に費用をかける余裕がなく、職員ができる範囲で、HP や SNS で情報発信活動を行っている状況である。また、富岡製糸場の HP も魅力的で効果的な PR 力のあるつくりになっていない。効果のある誘客活動をするためには、専門家のアドバイスを受け本格的な戦略を練り、効果のある宣伝 PR 活動を実施する必要がある。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

取組強化事項 1：富岡製糸場の魅力の磨き上げ（課題 1 関連）

① 国宝「繰糸所」の展示コンテンツの磨き上げ（事業番号 1-①）

繰糸所は、富岡製糸場見学において要の一つといえる場所であるが、昭和 62 年に自動繰糸機が停止した状況のまま保存されている。操業開始にあたり導入された「フランス式繰糸器」復元機の展示・実演のほか、令和 3 年度には説明パネルを刷新し展示解説の充実化や隣接している湯返場の公開などを行い魅力向上に努めているが、財源不足により繰糸所の保存修理・整備活用工事がいつ着工できるか分からず、本格的な展示の整備事業が見通せない状況である。そのため国宝建物の価値を損ねず現状変更の許可申請をしない範囲で、見どころの一つである繰糸所をより見ごたえのある見学場所に磨き上げ、富岡製糸場の文化観光施設としての魅力を向上する。

具体的には、現状の機械や設備に手を加えることなく、デジタル映像技術を用いて、選繭から煮繭・索緒、そして繰糸といった繰糸に係る一連の工程や設営当初のフランス式繰糸器から操業停止時に使用されていた自動繰糸機に至るまでの技術革新の変遷についての映像コンテンツを作成し、文字情報だけでなく視覚的に分かりやすいインタープリテーションを行う。作成したコンテンツについては大型モニターなどを利用して繰糸所内で放映し、国内外の来訪者の理解を深め、満足度を向上させる。

② 国宝「東置繭所」の展示・情報発信コンテンツの磨き上げ（事業番号 1-②）

東置繭所も繰糸所同様、本格的な保存修理・整備活用工事の着工が見えない状況で、より魅力的な見せ方、活用方法が求められる場所である。現在、東置繭所 1 階の北側では 10 年以上前に設置された富岡製糸場の概要を伝えるガイダンスパネル、同じく概要を伝える 20 分程度の動画上映、そして「富岡製糸場と絹産業遺産群」の富岡製糸場以外の 3 資産の模型が設置されている。空いたスペースではパンフレット類を並べて情報発信などを行っているが、魅力的な展示、情報発信とはなっていない。また、売店（土産販売）と、富岡シルク製品のギャラリー兼ショップが設置されているが、どちらの空間も洗練されたスペースにはなっていない。元繭倉庫である東置繭所の特徴・個性を活かしつつ、世界遺産・国宝内のミュージアムショップとして洗練された空間に磨き上げる。

東置繭所は、正門を入れて、正面に立つ建物で、見学者が最初に目にし、中に入る建物であり、富岡製糸場の第一印象を左右する空間である。国宝建物の価値を損ねず現状変更の許可申請をしない範囲で、展示コンテンツの磨き上げや情報発信方法のブラッシュアップを行うとともに、全体的なガイダンス機能をもたせ、広く情報発信をする場所としたい。「旧富岡製糸場整備活用計画」でも東置繭所は情報発信ゾーンに設定されている。

重点的に磨き上げるものは、ガイダンス映像で、内容はもちろん視聴設備、環境も向上させ、見る人の満足度を大幅に上げたい。視聴環境は、安全性と国宝の保護を担保したうえで東置繭所内にシアタールームのような環境を整備する。内容は、世界史、そして蚕糸業史の視点から、富岡製糸場、そして世界遺産としての価値へフォーカスする流れとし、グローバルな視点、今現在につながる身近な話題で富岡製糸場のストーリーを分かりやすく伝える。県立世界遺産センターのシアター映像とは差別化を図る。

基本となるパネル展示は、来訪者に見て分かりやすいグラフィカルな表現とする。西置繭所のパネル展示とは重ならないように、ガイダンスとして富岡製糸場のストーリーをコンパクトに示す。展示装置は繭倉庫の造りや雰囲気や隠さないよう、高さは低く、重厚感を与えない目立たないものにする。

4 資産全体のストーリー解説や周遊に関わる部分の展示については、市と群馬県が連携して展示原案を作成し、市の有識者委員会で決定する。

情報発信機能として、富岡製糸場や世界遺産としての価値のほかに、市や県の観光情報、シルク製品やまちなか案内など、観光客の利便性を高める情報発信を行う。また、他の 3 資産へのアクセス情報、県立世界遺産センターへの訪問を促す情報発信を行う。

なお、富岡製糸場の見学方法や見どころ案内、ガイドツアーの案内・集合など見学全般に関する情報発信は、乾燥場繭扱場が完成後（令和 7 年予定）はそこで行う予定である。

③ 富岡製糸場と他の構成資産等の価値の磨き上げに係る連携促進（事業番号 1-③）

群馬県と富岡市等関係市町及び民間企業等で組織する群馬県シルクカントリー群馬プロジェクト実行委員会（構成員：群馬県、富岡市、伊勢崎市、藤岡市、下仁田町、上毛新聞社、富岡製糸場世界遺産伝道師協会）では、これまで構成する世界遺産としての価値やストーリーの理解促進のため普及啓発事業を行ってきた。本実行委員会の事業として、若手研究者や若手のプレイヤーの育成を図る「絹ラボ」事業（調査研究の人的・分野的裾野の拡大、観光振興等の人材発掘など）を実施する。事業で得られた知見等を 4 資産での共同展示や共同コンテンツ・企画等に活用し、4 資産の磨き上げを行う。また、実際に「絹ラボ」参加者がプレイヤーとなり、県や 4 市町と協力して資産周辺の周遊を促進するための新コンテンツ制作を行う。

取組強化事項 2：観光客向けの新たなガイドツアー造成、復元袴の着用体験事業（課題 2 関連）

① 観光客の個別ニーズ（インバウンド向け含め）に合わせた小グループ向けツアーの造成（事業番号 2-④）

家族や友人同士の小グループ向けのガイドツアーを、インバウンド対応含め、新たに造成する。料金設定は高くなるが、コース、時間、説明内容をカスタマイズし、顧客の要望に沿ったガイドを行う。希望により、富岡製糸場内だけでなく、上州富岡駅や駐車場からガイドをスタートし、まちなかの案内を含めたガイドを行う。言語も、英語で対応できるガイドを養成し、他の言語を希望する場合は通訳の手配も行う。実施にあたっては、既存の富岡製糸場内の解説員ガイドツアーのシステムとは別に、ガイドの募集、養成、管理、手配、研修など一連の事務局業務ができる体制を新たに構築して行う。

② 史実に基づく工女袴・着物の着用体験事業（事業番号２－⑤）

明治５年設立当初期は、工女は作業着として袴を身に付けていた。この当時は女性が一般的に袴を着用する慣習は無く、工女が着用した袴は男性用の馬乗り袴と考えられる。富岡市では「富岡製糸場女性労働環境等研究委員会」を設置し、女性労働者の富岡製糸場での暮らしと労働について有識者による調査研究を行い、その中で女性たちの作業着の変遷について一定の研究成果がでている。これに基づき、官営当初期に工女が実際に身に付けていたであろう袴・着物について、１０着程度復元し、有料で観光客へ貸出し身に付けてもらい製糸場内の見学をしてもらうなどし、官営当初期の工女の気持ちを体験してもらえる事業を実施する。これまで、現在市販されている袴による着用体験は行われてきたが、生地から当初の製法や柄にこだわり復元した袴での着用体験は行われていない。

取組強化事項３：「富岡製糸場と絹産業遺産群」への周遊促進と周辺資源との連携強化（課題３関連）

① 富岡製糸場と絹産業遺産群」を巡る発型観光プラン構築（事業番号３－①）

「富岡製糸場と絹産業遺産群」をつなぐ滞在型観光プランを構築し、モデル事業として運用する。

具体的には、「富岡製糸場」と「絹」をテーマに面的なツアー展開を行い、専属のガイド（事業２－④と連動）とともに富岡製糸場と近隣施設を回りながら、その価値に共感してもらうとともに、滞在時間・旅行消費額の向上を狙う。

② 旧葦塚製糸場における富岡製糸場との関連性説明の強化（事業番号３－③）

富岡製糸場の正門近くに位置する旧葦塚製糸場は、富岡製糸場との関連性が非常に深い、貴重な明治初期の民間製糸工場の遺構である。旧葦塚製糸場は、富岡製糸場の建設にも関わっている葦塚直次郎が創立した器械製糸場であり、富岡製糸場と同サイズの繰糸機、揚返機が並んだ遺構が遺っている。この展示解説において富岡製糸場との関連性に関する情報発信を強化し、富岡製糸場の価値づけを深め、富岡製糸場を訪問する動機づけを高める。

③ 上州富岡駅観光案内スペースのガイドツアーの待合及び出発場所としての整備（課題２及び３関連）（事業番号６－①）

観光客向けの新たなガイドツアーに参加する観光客の待合場所として、上州富岡駅の既存の観光案内スペースを整備する。ガイドツアーの案内看板及びツアーの内容・ルート等について説明するパネル等を設置し、また、出発を待つ観光客のために待合室の空調の整備や椅子を置くなどし、利便性を向上させる。

④ 富岡製糸場行き電動バスにおける案内力の向上（事業番号３－②）

現在、上州富岡駅及び同駅近くの無料駐車場と富岡製糸場をつなぐ低速電動バスが、まちなかの各所を回り観光客を乗せて走っている。バスにはガイドが同乗し、富岡製糸場やまちなかの案内を行っている。このガイドの、インバウンド対応含め、富岡製糸場についての説明のスキルアップやバスについての案内看板の多言語化など磨き上げを行い、富岡製糸場へ向かう観光客の利便性を向上する。

⑤ 富岡製糸場内の公衆無線 Wi-Fi 整備の強化（事業番号 2-①）

現在、富岡製糸場では一定程度、Wi-Fi 環境を整備しているが、屋内など場所によっては電波が弱く、利用する観光客にとって不便な状況にある。富岡製糸場では、現在、無料音声ガイドの提供や、繰糸機械の動く様子を YouTube で見られるようにするなど、富岡製糸場の歴史や価値の説明にインターネットを利用している。ついては、富岡製糸場内のどこでも Wi-Fi を利用できるように環境を整備したい。

取組強化事項 4：県内外の絹遺産や生糸の流通拠点との広域連携強化（課題 4 関連）

① Japan Silk Net（仮称）（全国シルク関連遺産ネットワーク）構築事業（事業番号 2-⑦）

日本国内に点在するシルクに関連した遺産のネットワークを構築する。シルク関連の遺産は全国に 134 件（国指定・登録）あり、日本遺産でも八王子市や鶴岡市など養蚕やシルク関連のストーリーが登録されている。当初の連携先として想定しているのは、横浜開港資料館、岡谷蚕糸博物館、日本遺産センター八王子博物館などであり、その後、全国に展開していく。そうした団体間で連携を図り、調査研究や情報発信に取り組み、事業番号 2-⑥の企画展示への反映、事業番号 3-①の発型観光プランへの連携や共同シンポジウムなど連携事業を行っていく。

② 県内外のシルク関連遺産との展示連携（事業番号 1-②及び事業番号 2-⑥）

富岡製糸場と県内外のシルク関連遺産とのつながりを発信するため、国宝「東置繭所」において、関連する資産に関する情報発信を行う。国宝「西置繭所」の企画展示では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」を構成する他の 3 資産のほか、群馬県内の日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」（構成文化財 13 件）や「ぐんま絹遺産」（106 件）、県外の絹産業の歴史において関わりの深い地域と連携した展示を行う。横浜については、横浜開港資料館（拠点計画認定済み）と連携し、生糸の輸出などをテーマとし、岡谷については、岡谷蚕糸博物館と連携し、製糸機械類の変遷や片倉（富岡製糸場の最後の経営者）の歴史などをテーマとする。八王子については、日本遺産「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」の情報発信拠点である日本遺産センター八王子博物館と連携し、群馬の絹遺産との関わりなどをテーマとして実施する。

さらに、上記①Japan Silk Net と連動し、関連する資産や博物施設との展示連携を促進する。（※詳細は取組強化事項 1 ②を参照。）

取組強化事項 5：インバウンド体制づくり（課題 5 関連）

① 富岡製糸場及び周辺の文化施設等におけるプロモーション活動におけるインバウンド対応（事業番号 2-②）

富岡製糸場及び周辺の文化施設等のプロモーション活動や、取組強化事項 3 で述べた新たなガイドツアー造成プロジェクトなど、外国人観光客の案内やインバウンド向け事業に対応できる体制を富岡市観光協会内に整えることが、ポストコロナに向けて富岡製糸場及び富岡観光のプロモーションを行っていくうえで重要である。そのための人材育成を併せて行う。

また、インバウンドのターゲット（中国・台湾などのアジア地域やフランスなど欧米地域）が興味をもつストーリーや情報を発信するためのニーズ調査や当該地域とのつながりを示す調査研究を実施する。

② 富岡製糸場における音声ガイド及び案内・説明看板等の多言語化（事業番号 2-③）

外国人観光客に向けに、音声ガイドや案内・説明看板、パンフレット等については既に多言語化を進めているところであるが、言語数が足りない、あるいは十分に多言語化ができていない部分について、充実させる。

取組強化事項6：誘客のための効果的なプロモーション活動の実施（課題6関連）

①富岡製糸場HPのリニューアル（事業番号5－①）

多くの人が旅行へ行く前に訪問先の情報をインターネットで検索する時代にあって、文化観光施設のHPの出来栄は旅行者の行動を左右しかねない重要なものである。富岡製糸場のHPの刷新、磨き上げは、宣伝PR活動を強化するにあたって、第一に取り組むべき事業である。

②国内外へのプロモーション戦略事業（事業番号5－②）

現在、富岡製糸場の宣伝PR活動は製糸場の職員がHPやSNSで行っている。アクセスされるのを待っているだけで、積極的なアウトリーチができていない。効果の高い宣伝PR活動を専門家のアドバイスを受けるなどして効果的に実施する。

③ 県内温泉地宿泊施設等との富岡シルク製品を活用したコラボレーション事業の実施（事業番号4－①）

群馬県を訪れる多くの観光客が滞在する宿泊施設と、富岡シルク製品を活用した連携事業をすることで、富岡製糸場への誘客を狙う。

具体的には、宿泊施設の売店に既存の富岡シルク製品（ストール、ネクタイやシルク石鹸など代表的なもの）を置いてもらう、また、部屋に置かれるアメニティの中にシルク石鹸を入れてもらうなど、すぐに実現可能性の高い連携を進める。さらに、例えば、富裕層向けの高級宿泊施設に寝具や寝間着などを富岡シルク製品でそろえた特別室を設けるなどの特別プロジェクトを検討し、実現を目指す。

④ 西置繭所多目的ホールのユニークベニューとしての活用の推進事業の実施（事業番号5－③）

富岡製糸場の国宝「西置繭所」は令和2年に保存修理・整備活用工事が完了し公開活用が始まったが、1階に整備された多目的ホールは、活用開始がコロナ禍中であり、また、PR不足も重なって、認知が不十分である。世界遺産・国宝である旧繭倉庫の中に整備された多目的ホールであり、耐震補強用の鉄骨を骨組みとした壁と天井がガラス製の、まさしくユニークベニューであることから、群馬県の国際コンベンションセンターであるGメッセ群馬とも積極的に連携し、一層の活用を進めたい。そのために、活用を推進するためのプロジェクトを立ち上げ、プロモーション活動ができる人材の育成を図る。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

1 日本の近代化を支えた製糸業技術発展の象徴としての文化観光推進への貢献

富岡製糸場は明治5年の操業開始以降、昭和62年までの115年間、一貫して製糸工場として稼働してきた。先進の西洋技術を導入して始まった日本の近代製糸業では、その後、国内で独自の技術革新が行われ、繰糸機械や繭乾燥機が進化してきたが、富岡製糸場では常にその技術革新をリードし続け、その最終形を遺すかたちで文化遺産として保存活用されている。富岡製糸場は、日本の近代化を支えた基幹産業として発展した製糸業の象徴である。操業停止の状態では生活空間ともども工場全体が残る富岡製糸場を見学してもらうことで、日本の近代化の歴史を体感できる場所として存在感を示す。このストーリーを後世に伝え続けることが、蚕糸業で栄えた地域における文化観光推進へ貢献する。

2 日本近代化における女性活躍の歴史を再認識する文化観光の定着化

明治5年に操業開始した富岡製糸場では、全国から集まった数百名の女性たちが製糸作業の中心を担った。富岡製糸場は、大規模な近代工場で数百名の女性たちが集まって本格的な機械を操り労働するという、国内では画期的な女性労働の場所であった。製糸工場の従業員は約8割が女性と言われており、民営化後も富岡製糸場は女性活躍の場所であり続けた。明治初期から昭和後期にかけての日本の働く女性の

生き方暮らし方の変遷が通観できる場所ともいえる。群馬には日本遺産「かかあ天下一ぐんまの絹物語」があるように、女性が蚕糸業で家計を支え活躍をしてきた伝統文化がある。富岡製糸場が、日本の近代化のために女性が活躍した場所であることを再認識してもらい、現代の働く女性のエンパワーメントに貢献する文化観光地として牽引したい。

3 歴史的な養蚕製糸文化を背景とした富岡シルクブランドの発展と地域経済への貢献

官営模範製糸工場の設立の地として富岡が選ばれた背景の一つとして、富岡が江戸時代より養蚕が盛んな地であり質の良い繭が生産されていたことがある。まちの定期的な市（いち）では生糸と絹がもっとも多く取り扱われていた。富岡製糸場が設立されたことで、富岡は製糸場のあるまち、として発展してきた。その歴史、伝統を受けつぎ、富岡産の繭を原料とした生糸にこだわったシルク製品を富岡から発信し続けることで、富岡製糸場と地域の文化観光資源としての独自性、唯一性を高めることにつながり、よって、富岡シルク製品の販売流通の可能性を発展させることで地域経済に貢献する。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

拠点施設である富岡製糸場の国宝「東置繭所」と「繰糸所」の展示内容や情報発信方法が磨かれ、見ごたえが増すことで、保存整備が完了している国宝「西置繭所」とあわせて国宝3棟がそれぞれ魅力的な見学施設となることで、富岡製糸場の文化観光施設としての価値が大きく上がり、県内のみならず国内有数の文化観光施設として国内外に認知されることになる。

富岡製糸場周辺のまちなかには、最近整備が整った、歴史的建造物である「旧富岡倉庫」（繭担保倉庫）やそのなかに整備された群馬県立世界遺産センターがあり、また富岡製糸場の正門近くには明治初期の民間製糸工場の遺構である旧茱塚製糸場があるなど、文化資源が点在する。これまでも取り組んできたが、拠点施設である富岡製糸場や周辺の文化資源の魅力を強化し、観光客が増えれば、一層の地域経済の活性化やまちなかのにぎわい創出へつながる。

富岡製糸場が位置する富岡市街地の周囲には、重要文化財に指定されている貫前神社や妙義神社（名勝「妙義山」）、また、市立美術博物館や群馬県立自然史博物館といった文化財・文化施設もあり、さらに、民間の観光施設とも連携することで相乗効果が考えられる。

また、富岡製糸場と群馬県内各地の温泉地とをセットで群馬へ来県する観光客も多いことから、富岡製糸場の文化観光資源としての魅力が増せば県内各地の観光地への経済波及効果が期待できる。

こうして、富岡製糸場の見学者数が大幅に増加すれば、見学料収入等の増加により富岡製糸場の未整備の文化財建造物を保存整備する財源が確保でき、富岡製糸場はプラスの方向に進化することで、さらに魅力的な文化観光施設として磨かれ、まちなかへの経済波及効果だけでなく、群馬全体の地域活性化につながることになる。

4. 目標

目標①：富岡製糸場の年間入場者数（課題２及び５関連、取組強化事項２及び５関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

<考え方>

富岡製糸場の年間入場者数を目標とする。コロナ禍で令和３年度の入場者数は約２２万人であった。令和７年度の目標として４２万人を設定し、令和８年度にはコロナ禍前のレベル、４５万人を目標とする。

<把握の方法>

入場者数は、入場券の券売実績により把握する。

年度	実績		目標				
	令和元年	令和２年	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年	令和８年
目標値	442,840	177,419	４０万人	４０万人	４２万人	４２万人	４５万人
事業１－③： 富岡製糸場と他の構成 資産等の価値の磨き上 げに係る連携促進				「絹ラボ」の実施、 新コンテンツの製 作	「絹ラボ」の実施、 新コンテンツの製 作	「絹ラボ」の実施、 新コンテンツの製 作	「絹ラボ」の実施、 新コンテンツの製 作
事業２－④： 観光客向けの新たなガ イドツアー造成事業			計画の検討、体制 構築	ガイド募集開始・ 養成、人材育成	実証実験、研修、 人材育成、ガイド ツアー催行	人材育成	
事業２－⑦： Japan Silk Net（仮称） （全国シルク関連遺産 ネットワーク）構築事業				関係機関と調整	Japan Silk Net 構 築、記念事業の実施	関係機関との連携 （展示連携や発型 観光プランの協力 など）	関係機関との連携 （展示連携や発型 観光プランの協力 など）

事業５－①： 富岡市観光ＨＰ（富岡製 糸場ＨＰ）リニューアル 事業			計画検討	設計、制作、実証的 実施、見直し修正、 完成			
事業５－③ 西置繭所多目的ホール のユニバーサルとしての活 用推進事業			計画検討、体制構築	人材育成	人材育成、セールス 展開		

目標②：富岡製糸場の年間外国人入場者数（課題３～５関連、取組強化事項３～５関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

<考え方>

富岡製糸場の年間入場者数のうち、外国人の割合を目標とする。コロナ禍前（令和元年度）の約４，０００人を基準として、１４年後（令和１４年）にはコロナ禍前の２倍の８，０００人とする。

<把握の方法>

外国人入場者数は、アンケートにより把握する。

年度	実績			目標				
	H29 年	H30 年	令和元年	４ 年	５ 年	６ 年	７ 年	１４ 年
目標値	4,081 人	5,143 人	3,761 人	５００人	１，０００人	２，０００人	３，０００人	８，０００人
事業２－①： 富岡製糸場の公衆無線 Wi-Fi 強化事業				計画検討・調査	屋外 Wi-Fi 整備	屋内 Wi-Fi 整備		
事業２－②： インバウンド体制構築 事業				計画検討、体制構築、人材育成	専門人材の雇用、 プロモーション検 討、人材育成	人材育成		

事業２－③： 富岡製糸場の音声ガイド及び案内・説明看板等の多言語表示強化事業				看板：多言語化状況の調査、計画	必要性が高いものから順次整備	音声ガイド：必要言語の確認、計画、コンテンツ制作		
事業５－②： 国内外へのプロモーション戦略事業				現状の分析、実施計画の内容検討	専門家によるコーチング、人材育成、事業実施	人材育成、効果検証、見直し実施		

目標③：富岡製糸場の入場者満足度（課題１～３及び５関連、取組強化事項１～３及び５関連） （目標値の設定の考え方及び把握方法） ＜考え方＞ 富岡製糸場の入場者に対してアンケートを実施し、各コンテンツについて満足度を確認する。 ＜把握の方法＞ 富岡製糸場内で無記名アンケートを実施し、満足度について把握する。 なお、計測値は最上位満足度とする。							
年度	実績		目標				
	３年		４年	５年	６年	７年	８年
目標値	37.8		38.0	39.0	40.0	42.0	44.0
事業１－① 国宝「繰糸所」展示コンテンツ磨き上げ事業			展示コンテンツの仕様検討	仕様決定、業者選定、発注、コンテンツ制作	展示設備製作	展示設備設置、活用開始	
事業１－② 国宝「東置繭所」展示情報発信コンテンツ磨き上げ事業			リニューアル内容の検討	リニューアル内容の検討	調査、設計、各委員会対応	南側展示設備等リニューアル	北側ガイダンスパネル、動画等リニューアル

事業2－⑤ 史実に基づく工女袴着用体験事業			計画の検討	材料の手配・調整、袴等の製作、事業体制構築			
事業2－⑥ 「富岡製糸場と絹産業遺産群」構成資産の展示強化・連携事業				企画展開催（3資産）	企画展開催（世界遺産・日本遺産・ぐんま絹遺産）	企画展開催（岡谷地域）	企画展開催（日本のシルクロード（富岡・八王子・横浜））
事業3－③： 旧葎塚製糸場における富岡製糸場に関わる説明強化事業			説明内容・方法の検討	コンテンツ制作	展示整備、公開開始		
事業5－④ 誘客シナリオの製作			計画の検討、業者の選定、設計	事業実施開始	効果検証、見直し実施		

目標④：観光客向けの新ガイドツアーの実施回数（課題３関連、取組強化事項３関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

＜考え方＞

最終目標として、１週間８回、一か月３２回、年間で３６８回（年末年始を除く）を目標とする。

＜把握の方法＞

ガイドツアー実施回数を事業主体者の報告により把握する。

年度	実績		目標				
	２年	３年	４年	５年	６年	７年	８年
目標値	—	—	０回	９６回	１９２回	２８８回	３６８回
事業３－① 「富岡製糸場と絹産業遺産群」を巡る発型観光プラン構築事業					周遊ルート、体験コンテンツの検討、事業者との調整	モデル事業実施、事後評価・見直し、販売用ルート構築	
事業３－② 電動バスの利便性強化事業			現状の調査、整備内容の計画検討	案内看板等の整備、案内人の研修実施			
事業６－①： 新たなガイドツアーの待合及び出発場所としての利便性向上事業			必要な整備の調査検討	感染症対策物品、椅子・看板等の発注、設置			

目標⑤：富岡製糸場内の売店等の売上げ額（課題１及び５関連、取組強化事項１及び５関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

<考え方>

富岡製糸場内にある売店（土産物販売）と、シルクギャラリー（富岡シルク製品販売）の内装を、世界遺産・国宝に相応しいミュージアムショップ化をおこない売上の増加を目指す。両店舗とも、令和８年度に売上げ額を令和元年度の２倍を目指す。

<把握の方法>

年間の売上額で把握する。

年度	実績		目標				
	令和元年	令和２年	４年	５年	６年	７年	８年
目標値	104, 615 千円	50, 020 千円	81, 862 千円	113, 704 千円	145, 546 千円	177, 388 千円	209, 230 千円
事業４－① 県内温泉地宿泊施設等との富岡シルク製品を活用したコラボレーション事業			プロジェクトの調査・検討、試作品製造	試作品製造、実証実験に基づく再検討	実施		
事業６－② 東置繭所の売店及びシルクギャラリーの整備事業			計画の検討、設計	計画の検討、設計	調査、設計、各委員会対応	南側リニューアル	北側リニューアル

5. 目標の達成状況の評価

入場者アンケートの結果や観光庁のデータなどを活用し、満足度等目標の達成状況を年度ごとに確認し、より効果的な事業実施に向けて検討、以降の事業内容や実施方法に反映して改善を図る。

また、満足度の向上に向けて、幅広い意見を収集するため、Google Business への「クチコミ」の投稿を推奨し、その情報も併せて検討し、改善につなげる。

入場者数、ガイドツアーの実施回数、売店等の売上額については、月次・年次の集計により把握する。

これらの把握した数値のデータは、共同申請者である文化観光推進事業者とも共有し、比較分析や相互評価を行う。また、年度ごとに目標値との差や前年度との増減といったデータの変動を確認し、課題や改善点などについて、文化観光推進事業者と情報共有を図り、次年度の事業に臨機応変に反映させるなど、目標達成に向けて柔軟な対応が図れるよう強化する。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

国宝「東置繭所」では富岡製糸場の概要ガイダンスをパネル解説で行い、国宝「西置繭所」では収蔵する歴史的資料の展示、また、富岡製糸場の概要を16mの年表にまとめて紹介している。西置繭所の2階では、西置繭所保存修理工事の際に調査で判明した様々な痕跡や古材の展示解説を行っている。また、繭の保管方法の再現展示や、屋根のオリジナルの葺き方について、劣化のため再利用しなかった古材を用いて再現展示している。

明治5年開業の際に導入された蒸気エンジンについて、復元機を動態展示している。併せてCG映像による解説動画を上映している。

生糸の原料である繭をつくるカイコについて生態展示を行っている。併せて、カイコの餌となる桑木の桑園を設け、カイコと桑について解説している。

製糸場内には従業員が家族と暮らした社宅群があるが、一棟を保存整備し、そのうちの一室において昭和後期に使われていた頃の室内の様子を再現展示している。併せて、かつてそこで暮らしていた方から寄贈された写真アルバム（レプリカ）を置いて来訪者に見てもらい、製糸工場内での暮らしについて紹介している。

- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

富岡製糸場全体及び国宝「西置繭所」において音声ガイド（多言語）による解説を行っている。無料音声ガイドアプリのダウンロードを入場者各自のスマホに読み込むかたちで行っている。また、繰糸所に保存されている自動繰糸機の動く様子をYouTubeにアップして入場者が各自のスマホで見られるようにしており、読み込むためのQRコードの看板を設置している。西置繭所内には16mに及ぶ年表を展示しているが、年表上では英語の併記が限られているため、全ての内容を英語で読めるよう専用のウェブサイトが見られるQRコードを年表に付けている。

イベントのお知らせやボランティア活動、保存活用状況等に関する情報発信を、公式Facebookや公式Instagramにて行っている。

- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

解説員によるガイドツアーは予約制で英語ガイドを行っている。音声ガイドについては日本語、英語、フランス語、中国語、韓国語で実施している。富岡製糸場について紹介する様々なリーフレット類や場内の案内看板は、最低でも英語版の作成や英語併記をするように努めている。

6-1-2. 本計画における取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

○国宝「繰糸所」の展示コンテンツの磨き上げ

繰糸所は、富岡製糸場見学において要の一つといえる場所であるが、昭和62年に自動繰糸機が停止した状況のまま保存されている。操業開始にあたり導入された「フランス式繰糸器」復元機の展示・実演を行っているものの、展示解説は手作りの説明板が置いてあるだけである。財源不足により繰糸所の保存修理・整備活用工事がいつ着工できるか分からず、本格的な展示の整備事業が見通せないなか、国宝建物の価値を損ねず現状変更の許可申請をしない範囲で、見どころの一つである繰糸所をより見ごたえのある

見学場所に磨き上げ、富岡製糸場の文化観光施設としての魅力を向上する。

具体的には、CG やプロジェクションマッピングなどのデジタル映像技術等を用いて、現状の機械や設備に手を加えることなく、機械が動き、労働者が作業し、繭から糸が繰られる様子がイメージできるように、また、製糸工程や技術の変遷を伝えることが出来るように整備を行い、見学者が見て分かりやすいインタープリテーションを行う

○国宝「東置繭所」の展示・情報発信の内容・方法の磨き上げ

東置繭所も繰糸所同様、本格的な保存整備工事の着工が見えない状況で、より魅力的な見せ方、活用方法が求められる場所である。現在、東置繭所 1 階の北側では 10 年以上前に設置された富岡製糸場の概要を伝えるガイダンスパネル、同じく概要を伝える 20 分程度の動画上映、そして「富岡製糸場と絹産業遺産群」の富岡製糸場以外の 3 資産の模型が設置されている。空いたスペースではパンフレット類を並べて情報発信などを行っているが、魅力的な展示、情報発信とはなっていない。また、売店（土産販売）と、富岡シルク製品のギャラリー兼ショップが設置されているが、どちらの空間も洗練されたスペースにはなっていない。元繭倉庫である東置繭所の特徴・個性を活かしつつ、世界遺産・国宝内のミュージアムショップとして洗練された空間に磨き上げる。

東置繭所は、正門入ってすぐ、正面に立つ建物で、見学者が最初に目にし、中に入る建物であり、富岡製糸場の第一印象を左右する空間である。国宝建物の価値を損ねず現状変更の許可申請をしない範囲で、展示コンテンツの磨き上げや情報発信方法のブラッシュアップを行う。

具体的には、西置繭所内の展示及び令和 7 年度に完成予定の乾燥場繭扱場の展示予定内容をふまえたうえで、富岡製糸場の歴史・価値についての概要ガイダンス、施設としての案内、周辺文化施設や地域の蚕糸業史についての情報発信、まちなかの案内、世界遺産としての価値、「富岡製糸場と絹産業遺産群」3 資産との関係性、富岡シルクについての情報発信などを、デジタル映像技術なども使いつつ、展示・情報発信方法をリニューアルする。

○観光客の個別ニーズに合わせた小グループ向けガイドツアー造成

家族や友人同士の小グループ向けのガイドツアーを、インバウンド対応含め、新たに造成する。料金設定は高くなるが、コース、時間、説明内容をカスタマイズし、顧客の要望に沿ったガイドを行う。希望により、富岡製糸場内だけでなく、上州富岡駅や駐車場からガイドをスタートし、まちなかの案内を含めたガイドを行う。言語も、英語で対応できるガイドを養成し、他の言語を希望する場合は通訳の手配も行う。

実施にあたっては、既存の富岡製糸場内の解説員ガイドツアーのシステムとは別に、ガイドの募集、養成、管理、手配、研修など一連の事務局業務ができる体制を新たに構築して行う。

○史実に基づく工女袴・着物の着用体験の実施

明治 5 年設立当初期は、工女は作業着として袴を身に付けていた。この当時は女性が一般的に袴を着用する慣習は無く、工女が着用した袴は男性用の馬乗り袴と考えられる。富岡市では「富岡製糸場女性労働環境等研究委員会」を設置し、女性労働者の富岡製糸場での暮らしと労働について有識者による調査研究を行い、その中で女性たちの作業着の変遷について一定の研究成果がでている。これに基づき、官営当初期に工女が実際に身に付けていたであろう袴・着物について、10 着程度復元し、観光客に有料で身に付けて製糸場内の見学をしてもらい、官営当初期の工女の気持ちを体験してもらえ事業を実施する。これまで、現在市販されている袴による着用体験は行われてきたが、生地から当初の製法や柄にこだわり復元した袴での着用体験は行われていない。

- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

○富岡製糸場内の公衆無線Wi-Fi整備の強化

現在、富岡製糸場では一定程度、Wi-Fi環境を整備しているが、屋内など場所によっては電波が弱く、利用する観光客にとって不便な状況にある。富岡製糸場では、現在、無料音声ガイドの提供や、繰糸機械の動く様子をYouTubeで見られるようにするなど、富岡製糸場の歴史や価値の説明にインターネットを利用している。については、富岡製糸場内のどこでもWi-Fiを利用できるように環境を整備したい。

- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

音声ガイド及び説明・案内看板の多言語化の充実、新たなガイドツアーにおけるインバウンド対応

○富岡製糸場における音声ガイド及び案内・説明看板等の多言語化

外国人観光客向けに、音声ガイドや案内・説明看板、パンフレット等については既に多言語化を進めているところであるが、言語数が足りない、あるいは十分に多言語化ができていない部分について、充実させる。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

1. 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

① 群馬県

群馬県は、構成4市町と、世界遺産登録前から群馬県世界遺産協議会を組織し、包括的保存管理計画を策定して横の連携を図っている。また、県が主導し、県・構成4市町・上毛新聞社・世界遺産伝道師協会を構成員とする「シルクカントリー群馬プロジェクト実行委員会」を組織し、これまでに国内外の関係者を交え、イベント等様々な普及啓発活動を行ってきた。令和2年度からは、研究者の育成を目的とした「絹ラボ」を実施している。

さらに、日本遺産「かかあ天下一ぐんまの絹物語ー」や群馬県独自の制度である「ぐんま絹遺産」なども所管し、県内での連携はもとより、本計画をきっかけに全国の絹関連遺産とのネットワークを構築し、各地との連携を担う。

これまで県が主体となり外部有識者を交え、世界遺産の4市町のガイド内容の見直し、来訪者の動向調査、世界遺産・日本遺産・ぐんま絹遺産の各種普及イベント、海外の研究者を招いた国際シンポジウムなどを実施してきた。

② 一般社団法人 富岡市観光協会

富岡市観光協会は平成30年7月法人格を取得し、令和3年3月観光地域づくり候補法人（候補DMO）として観光庁より認定を受けた団体であって富岡市の観光振興のかじ取り役である。

富岡市観光戦略プランに掲げる基本方針と連携した施策展開で、富岡製糸場の集客効果を市内全域に波及させるよう努めているところであるが、DMO本登録に向けて課題となっている、協会自主財源の確保につながる自主事業の開発展開が喫緊の課題である。

現在、富岡製糸場から市内の観光資源（妙義山、群馬サファリパーク、群馬県立自然史博物館、貫前神社、妙義神社など）への周遊や滞在時間の延長を図り、観光客による経済波及効果の拡大をさせるため、以下各種事業を市と連携しながら以下の事業に取り組んでいる。

- ・リアル宝探しゲーム
- ・まちなかガイド事業

- ・フォトコンテスト
- ・絵手紙展
- ・妙義ふれあいプラザもみじの湯指定管理者
- ・【コロナ対策観光事業者支援】未来チケット発行事業
- ・【県民割クーポン事業】いいところ発見クーポン発行事業

③ 公益財団法人 群馬県観光物産国際協会

群馬県観光物産国際協会は、地域連携DMOに登録されており、広く群馬県内の観光関連事業を行っている。世界遺産に関連しては、平成26年の世界遺産登録前から、ぐんまシルクカントリーぐんま連絡協議会（県民団体で構成し、県が事務局を担当）から受託し「富岡製糸場と絹産業遺産群」のスタディーバスツアーを実施したり、登録後もモニターツアー「世界遺産物語」（各資産に合わせて4コース）を実施している。

2. 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

① 群馬県

令和元年度から、来訪者を対象としたアンケート調査を実施し、県と構成4市町で結果を共有し、今後の活性化に向けた課題を抽出した。令和2年度も引き続き、検討を重ね、「活用方針」として大きな方向性を共有した。令和3年度及び4年度も世界遺産来訪者Webアンケートを実施している。

6-2-2. 本計画における取組

1. 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

① 群馬県

群馬県は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」について包括的な視点から事業に参画し、主にソフト事業として、東置繭所における展示磨き上げ事業（4資産や国内・海外の関連遺産）、富岡製糸場から他の3資産への周遊を促す事業、富岡製糸場と歴史的な関わりの深い県内外の地域との広域周遊事業、国内の絹関連遺産との連携事業を行う。

さらに、県の観光部署等から情報提供を受け、本拠点計画の推進に関連する県事業との連携を図る。

- ・国宝「東置繭所」の展示・情報発信コンテンツの磨き上げ事業（事業番号1-②）
- ・「富岡製糸場と絹産業遺産群」構成資産の展示強化・連携事業（事業番号2-⑥）
- ・Japan Silk Net（仮称）（全国シルク関連遺産ネットワーク）構築事業（事業番号2-⑦）
- ・「富岡製糸場と絹産業遺産群」を巡る発型観光プラン構築事業（事業番号3-①）
- ・富岡製糸場と他の構成3資産等との連携促進事業（事業番号3-④）

② 一般社団法人 富岡市観光協会

富岡市観光協会は複数の事業において実施主体となり、富岡製糸場の文化的価値のさらなる普及伝達と今ある市内の観光資源を結び付けた地域活性化の核となる以下各種事業の担い手として、中心的に計画・実施を進めていく。

- ・インバウンド体制構築事業（事業番号2-②）
- ・観光客向けの新たなガイドツアー造成事業（事業番号3-②）
- ・史実に基づく工女袴着用体験事業（事業番号2-⑤）
- ・富岡市観光HP（富岡製糸場HP）のリニューアル事業（事業番号5-①）
- ・国内外へのプロモーション戦略事業（事業番号5-②）
- ・西置繭所多目的ホールのユニークメニューとしての活用推進事業（事業番号5-③）

・誘客シナリオの製作（事業番号５－④）

③ 公益財団法人 群馬県観光物産国際協会

DMOであり、県内各地の観光地点の滞在者・消費者のニーズトレンド分析を行っており、富岡製糸場と他構成資産との周遊率向上のためのモデルコース作成や、遠隔地域居住者向けの宿泊プランやモデルコース作成の企画等で連携する。

・「富岡製糸場と絹産業遺産群」を巡る発型観光プラン構築事業（事業番号３－①）

2. 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

群馬県が実施している富岡製糸場の世界遺産来訪者 Web アンケートの結果の提供を受け、入場者の満足度や動向等を整理・分析する。

6-3. 施行規則第１条第２項第２号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

一般社団法人富岡シルク推進機構は、現在、富岡製糸場内の東置繭所において、富岡シルクブランド商品の紹介と販売を実施している。主要な商品は、富岡シルク１００％のネクタイやストールで、そのほかシルク推進機構の会員の商品も販売している。

富岡製糸場の年間入場者数は、世界遺産登録時に約１３３万人を記録して以降、減少の一途であるが、富岡シルク商品の売上額の減少は、商品の充実もあってか、入場者数の減少率よりも緩やかであったところ、コロナ禍により入場者数が激減し、大きな影響を受けているところである。

6-3-2. 本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

富岡シルク推進機構は、県内温泉地宿泊施設等との富岡シルク製品を活用したコラボレーション事業を実施し、富岡シルク製品の普及を通して富岡製糸場をPRし誘客につなげる。

また、富岡製糸場内東置繭所にあるシルクギャラリーを世界遺産・国宝に相応しい空間へ磨き上げる事業を行い、富岡製糸場の魅力増進につなげる。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	国宝「繰糸所」展示コンテンツ磨き上げ事業
事業内容	繰糸所は、富岡製糸場見学において要の一つといえる場所であるが、昭和 62 年に自動繰糸機が停止した状況のまま保存されている。操業開始にあたり導入された「フランス式繰糸器」復元機の展示・実演のほか、令和 3 年度には説明パネルを刷新し展示解説の充実化や隣接している揚返場の公開などを行い魅力向上に努めているが、財源不足により繰糸所の保存修理・整備活用工事がいつ着工できるか分からず、本格的な展示の整備事業が見通せない状況である。そのため国宝建物の価値を損ねず現状変更の許可申請をしない範囲で、見どころの一つである繰糸所をより見ごたえのある見学場所に磨き上げ、富岡製糸場の文化観光施設としての魅力を向上する。 具体的には、現状の機械や設備に手を加えることなく、デジタル映像技術を用いて、選繭から煮繭・索緒、そして繰糸といった繰糸に係る一連の工程や設営当初のフランス式繰糸器から操業停止時に使用されていた自動繰糸機に至るまでの技術革新の変遷についての映像コンテンツを作成し、文字情報だけでなく視覚的に分かりやすいインタープリテーションを行う。作成したコンテンツについては大型モニターなどを利用して繰糸所内で放映し、国内外の来訪者の理解を深め、満足度を向上させる。 <年度別計画> ・令和 4 年度 展示コンテンツの仕様検討 ・令和 5 年度 仕様の決定、業者の選定、発注、コンテンツ制作 ・令和 6 年度 展示設備製作 ・令和 7 年度 展示設備設置、活用開始
実施主体	富岡市（富岡製糸場課）
実施時期	令和 4 年度～令和 7 年度
継続見込	事業期間終了後は、入場料収入を財源とし、富岡市が維持管理をします。
アウトプット 目標	令和 7 年度に完成させ、活用を開始します。
必要資金 調達方法	64.5 百万円（内訳：21.5 百万円（市費） 43 百万円（文化庁補助金） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-②)

事業名	国宝「東置繭所」の展示・情報発信コンテンツ磨き上げ事業
事業内容	東置繭所は、正門に入って、正面に立つ建物で、見学者が最初に目にし、中に入る建物であり、富岡製糸場の第一印象を左右する空間である。国宝建物の価値を損ねず現状変更の許可申請をしない範囲で、展示コンテンツの磨き上げや情報発信方法のブラッシュアップを行うとともに、全体的なガイダンス機能をもたせ、広く情報発信を

	する場所としたい。「旧富岡製糸場整備活用計画」でも東置繭所は情報発信ゾーンに設定されている。 重点的に磨き上げるものは、ガイダンス映像で、内容はもちろん視聴設備、環境も向上させ、見る人の満足度を大幅に上げたい。視聴環境は、安全性と国宝の保護を担保したうえで東置繭所内にシアタールームのような環境を整備する。内容は、世界史、そして蚕糸業史の視点から、富岡製糸場、そして世界遺産としての価値へフォーカスする流れとし、グローバルな視点、今現在につながる身近な話題で富岡製糸場のストーリーを分かりやすく伝える。県立世界遺産センターのシアター映像とは差別化を図る。 基本となるパネル展示は、来訪者に見て分かりやすいグラフィカルな表現とする。西置繭所のパネル展示とは重ならないように、ガイダンスとして富岡製糸場のストーリーをコンパクトに示す。展示装置は繭倉庫の造りや雰囲気を感じさせないよう、高さは低く、重厚感を与えない目立たないものにする。 情報発信機能として、富岡製糸場や世界遺産としての価値のほかに、市や県の観光情報、シルク製品やまちなか案内など、観光客の利便性を高める情報発信を行う。また、他の3資産へのアクセス情報、県立世界遺産センターへの訪問を促す情報発信を行う。 なお、4資産全体のストーリー解説や周遊に関わる部分の展示については、市と群馬県が連携して展示原案を作成し、市の有識者委員会で決定する。 <年度別計画> ・令和4年度 リニューアル内容の検討 ・令和5年度 リニューアル内容の検討 ・令和6年度 調査・設計・各委員会対応 ・令和7年度 南側展示設備等リニューアル ・令和8年度 北側ガイダンスパネル・動画等リニューアル
実施主体	富岡市（富岡製糸場課）
実施時期	令和4年度～令和8年度
継続見込	事業期間終了後は、入場料収入を財源とし、富岡市が維持管理をします。
アウトプット 目標	令和8年度に展示・情報発信方法をリニューアルします。
必要資金 調達方法	48百万円（内訳：16百万円（市費） 32百万円補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
(事業番号1-③)	
事業名	富岡製糸場と他の構成資産等の価値の磨き上げに係る連携促進
事業内容	若手研究者や若手のプレイヤーの育成を図るために、県内外の学生や一般の人に、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」や絹文化、観光・地域振興などをテーマとした調査研究「絹ラボ」に参画してもらう。研究成果は、若者が参加する地域のアクティビティや、4資産共同で実施する企画展示等に活用していく。

	また、実際に「絹ラボ」参加者がプレイヤーとなり、県や4市町と協力して資産周辺の周遊を促進するためのガイド企画など新コンテンツ制作を行う。 本事業は、群馬県等が負担金を出している群馬県シルクカントリー群馬プロジェクト実行委員会（群馬県、富岡市、伊勢崎市、藤岡市、下仁田町、上毛新聞社、富岡製糸場世界遺産伝道師協会）が自主財源で実施する。 ＜年度別計画＞ ・令和5年度 「絹ラボ」の実施、新コンテンツの制作 ・令和6年度 「絹ラボ」の実施、新コンテンツの制作 ・令和7年度 「絹ラボ」の実施、新コンテンツの制作 ・令和8年度 「絹ラボ」の実施、新コンテンツの制作
実施主体	群馬県
実施時期	令和5年度～令和8年度
継続見込	県費により、継続的に実施
アウトプット 目標	・絹ラボ……採用件数 10件
必要資金 調達方法	8百万円（県費）

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

（事業番号2-①）

事業名	富岡製糸場の公衆無線Wi-Fi強化事業
事業内容	現在、富岡製糸場内では、Wi-Fi環境が整備されているものの、見学範囲内において電波の届かない、あるいは電波が弱い場所がある。富岡製糸場内では、来訪者が各自のスマートフォンを使い利用する音声ガイドがあるが、電波の届かない箇所もあり、支障をきたしている。よって、富岡製糸場内全体を網羅できるWi-Fi環境を整備し、どこにいても音声ガイドが快適に利用できるようにし、富岡製糸場の価値や魅力を確実に伝えられるようにする。また、来訪者の利便性を向上させる。 ＜年度別計画＞ ・令和4年度 計画の検討・調査 ・令和5年度 屋外Wi-Fi環境整備 ・令和6年度 屋内Wi-Fi環境整備
実施主体	富岡市（富岡製糸場課）
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	事業期間終了後は、入場料収入を財源とし、富岡市が維持管理をします。
アウトプット 目標	令和5年度に、屋外のWi-Fi環境を、令和6年度には、屋内のWi-Fi環境を強化し観光客の利便性を向上します。
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2万円（市費） 4百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応

等について検討する。

(事業番号 2-②)

事業名	インバウンド体制構築事業
事業内容	富岡製糸場及び周辺の文化施設等のプロモーション活動や、取組強化事項3で述べた新たなガイドツアー造成プロジェクトなど、外国人観光客の案内やインバウンド向け事業に対応できる体制を富岡市観光協会内に整えることが、ポストコロナに向けて富岡製糸場及び富岡観光のプロモーションを行っていくうえで重要である。そのための人材育成を併せて行う。 令和4年度 体制の検討、構築、人材育成 令和5年度 専門人材の雇用、プロモーション検討、人材育成 令和6年度 人材育成
実施主体	富岡市観光協会
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	事業期間終了後は、富岡市から富岡市観光協会への負担金事業分補助金として財源を確保し引き続き人材育成を継続します。
アウトプット 目標	令和6年度に富岡市観光協会主催のインバウンドプロモーションの開催
必要資金 調達方法	9百万円 (内訳: 3百万円(市費) 6百万円 補助金(文化庁)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 2-③)

事業名	富岡製糸場の音声ガイド及び案内・説明板等の多言語表示強化事業
事業内容	富岡製糸場では、外国人観光客向けに、音声ガイドや案内・説明看板、パンフレット等については既に多言語化を進めているところであるが、言語数が足りない、あるいは十分に多言語化ができていない部分について、充実させ、富岡製糸場全体のインバウンド対応を向上させる。 令和4年度 看板: 多言語化状況の調査、計画 令和5年度 必要性が高いものから順次整備 令和6年度 音声ガイド: 必要言語の確認、計画、コンテンツ制作
実施主体	富岡市(富岡製糸場課)
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	令和6年度に多言語化を完了
アウトプット 目標	音声ガイドの5言語化(日、英、中、韓、仏) 未整備の案内看板の多言語化
必要資金 調達方法	6百万円 (内訳: 2百万円(市費) 4百万円 補助金(文化庁)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応

	等について検討する。
--	------------

(事業番号 2-④)

事業名	観光客向けの新たなガイドツアー造成事業
事業内容	家族や友人同士の小グループ向けのガイドツアーを、インバウンド対応含め、新たに造成する。コース、時間、説明内容をカスタマイズし、顧客の要望に沿ったガイドを行う。料金設定は、4,000 円以上を検討したい。希望により、富岡製糸場内だけでなく、上州富岡駅や駐車場からガイドをスタートし、まちなかの案内を含めたガイドができるようにする。言語も、英語で対応できるガイドを養成し、他の言語を希望する場合は別途通訳の手配も行う。 実施にあたっては、既存の富岡製糸場解説員とは別に、ガイドの募集、養成、管理、手配、研修など一連の事務局業務ができる体制を新たに構築する。 <年度別計画> ・令和4年度 計画の検討、体制構築、 ・令和5年度 ガイド募集開始・養成、人材育成 ・令和6年度 実証実験、研修、人材育成、ガイドツアー催行 ・令和7年度 人材育成
実施主体	富岡市観光協会
実施時期	令和4年度～令和7年度
継続見込	事業期間終了後は、富岡市観光協会の自主事業としてガイドツアーを催行し、運営費を確保する。人材育成については、富岡市から富岡市観光協会への負担金事業分補助金として財源を確保し継続。
アウトプット 目標	令和6年度より本格的に催行。1週間8回、年間368回を目標とする。
必要資金 調達方法	9百万円（内訳：3百万円（市費） 6百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 2-⑤)

事業名	史実に基づく工女袴着用体験事業
事業内容	明治5年設立当初期は、工女は作業着として袴を身に付けていた。この当時は女性が一般的に袴を着用する慣習は無く、工女が着用した袴は男性用の馬乗り袴と考えられる。富岡市では「富岡製糸場女性労働環境等研究委員会」を設置し、女性労働者の富岡製糸場での暮らしと労働について有識者による調査研究を行い、その中で女性たちの作業着の変遷について一定の研究成果がでている。これに基づき、官営当初期に工女が実際に身に付けていたであろう袴・着物について、10着程度復元し、観光客に身に付けてもらい、官営当初期の工女の気持ちを体験してもらえ事業を実施する。これまで、現在市販されている袴による着用体験は行われてきたが、生地から当初の製法や柄にこだわり復元した袴での着用体験は行われていない。 まちなかの呉服屋等に着物の維持管理含め委託し、1回2時間5,000円程度（着付

	け、着物・小物一式レンタル、富岡製糸場入場券付き）で観光客へ貸出す。 <年度別計画> ・令和4年度 計画の検討 ・令和5年度 材料の手配・調整、袴等の製作、事業体制構築
実施主体	富岡市観光協会
実施時期	令和4年度～令和5年度
継続見込	富岡市観光協会の自主事業として継続
アウトプット 目標	袴・着物を着用するだけでなく、富岡製糸場内での座繰り体験を組み合わせるなどした見学ツアーも催行。
必要資金 調達方法	4. 5百万円（内訳：1. 5百万円（市費） 3百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号2－⑥）

事業名	「富岡製糸場と絹産業遺産群」構成資産の展示強化・連携事業
事業内容	東置繭所における展示強化（事業番号1－②）と併せて、定期的（年1回）に国宝西置繭所において、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産間及び全国の関連文化財に係る展示を行う。構成資産間の関連についての展示から開始し、県内に残る関連文化財（日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」、ぐんま絹遺産）、国内の関連地域へと視野を広げ、富岡製糸場が影響を及ぼした影響の大きさを伝えていく。 富岡製糸場と他の3資産の展示では、例えば、製糸場と3資産が連携して繭の品種改良を行ったことや、田島弥平旧宅では製糸場からの紹介で研修生を受け入れたこと、高山社は製糸場で行われた繭の品評会に協力したこと、荒船風穴は製糸場の蚕種製造部から卵を預かっていたこと等を紹介し、3資産の現地での展示解説につなげる。また、富岡製糸場を含め各資産では調査研究が進展しており、新たに明らかになった価値や、今しか見られない保存整備工事の様子などを発信することで周遊を促す。 他の3資産への周遊については、展示の内容に加えて、各資産へのアクセス方法や道中の観光情報を盛り込む。また、WEB上で、各資産のストーリーやエピソードの解説を充実させるとともに、3資産へのルート案内や関連する絹遺産に加えて、観光情報などを発信することで利用者の訪問を促す。 また、企画展示のテーマとして、県内の日本遺産やぐんま絹遺産などの絹関連遺産を扱うだけでなく、絹産業の歴史において関わりの深い県外地域、横浜、岡谷、八王子地域等と連携して企画展示を実施する。 横浜については、横浜開港資料館と連携し、生糸の輸出などをテーマとし、岡谷については、岡谷蚕糸博物館と連携し、製糸機械類の変遷や片倉（富岡製糸場の最後の経営者）の歴史などをテーマとする。さらに、絹産業を基盤として発展し、“桑都”と称され、都内で唯一、日本遺産に認定された八王子については、桑都日本遺産センター八王子博物館（はちはく）や絹の道資料館、令和8年度内に開設予定の「八王子市歴史・郷土ミュージアム（仮称）」等と連携し、群馬の絹遺産との関わり等をテーマとして実施する。

	<年度別計画> ・令和5年度 企画展開催1回（3資産） ・令和6年度 世界遺産登録10周年企画展開催1回 （世界遺産・日本遺産・ぐんま絹遺産） ・令和7年度 企画展開催1回（岡谷地域） ・令和8年度 企画展開催1回（富岡市-八王子市-横浜市の日本のシルクロード）
実施主体	群馬県、富岡市
実施時期	令和5～8年度
継続見込	制作したパネル等を活用し、県立世界遺産センターと連携しながら継続
アウトプット 目標	開催回数 1回／年 入場者数 25千人／期間
必要資金 調達方法	10.2百万円（内訳：3.4百万円（県費）、6.8百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号2-⑦）

事業名	Japan Silk Net（仮称）（全国シルク関連遺産ネットワーク）構築事業
事業内容	「富岡製糸場と絹産業遺産群」にゆかりの深い、岡谷・横浜・八王子等をはじめとし全国に点在するシルク関連遺産を持つ地域とネットワークを構築する。世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」と日本各地の絹遺産との関わりや、日本の絹産業と世界の関わり等について、共同での企画展示や関連する体験イベント等で発信していく。特に令和6年度は世界遺産登録10周年にあたることから、各地を巻き込んだ記念事業を実施する。 また、WEB上で日本各地の絹遺産との関わりの紹介や日本の絹産業と世界の関わり等について、多言語で広く情報発信していく。世界遺産と地元との繋がりを知ることで、ネットワーク先を出発点とする発型観光につなげ、誘客の輪を広げていく。 さらに、ネットワーク先の専門的な知識やノウハウを活かして、共同でのシルク商品の開発等に応用していく。 令和5年度 関係機関との調整（岡谷蚕糸博物館、横浜開港資料館、桑都日本遺産センター八王子博物館等） 令和6年度 Japan Silk Net 構築、世界遺産登録10周年に合わせて記念事業を実施 令和7～8年度 調査研究、関係機関との連携（事業1-②の国宝「東置繭所」の展示・情報発信コンテンツ磨き上げ事業、事業2-⑥の「富岡製糸場と絹産業遺産群」構成資産の展示強化・連携事業及び事業3-①の「富岡製糸場と絹産業遺産群」を巡る発型観光プラン構築事業の協力など）
実施主体	群馬県
実施時期	令和5～8年度
継続見込	構成団体が負担金を出し合い維持
アウトプット	令和6年度 Japan Silk Net 構築

目標	
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（県費）、4百万円補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	
（事業番号3-①）	
事業名	「富岡製糸場と絹産業遺産群」を巡る発型観光プラン構築事業
事業内容	「富岡製糸場と絹産業遺産群」にゆかりの地を出発地とした発型観光プランを構築し、モデル事業として運用する。プランの企画には、（公財）群馬県観光物産国際協会の専門的な知見を生かし、複数の資産を周遊するルートを構築する。 各ルートは、世界遺産にちなんだ「養蚕」「製糸」「織物」などの体験や群馬の誇る食・温泉などを盛り込んだパッケージプランとする。ルート構築後は、モデル事業として実施し、改善点等を見直した上で事業終了後の継続的な販売を目指す。 具体的には、富岡製糸場と関わりのある八王子や横浜などの地域から出発し、富岡製糸場をはじめとする構成資産とのつながりを起点に富岡製糸場の価値に共感してもらえるプランとする。 将来的には、海外とのつながりを起点とした海外発ツアーを構築し、インバウンドの来訪を促進する。 ＜年度別計画＞ ・令和6年度 周遊ルート、体験コンテンツの検討、事業者との調整 ・令和7年度 モデル事業実施、事後評価・見直し、販売用ルート構築
実施主体	群馬県（文化振興課、観光魅力創出課）、公益財団法人 群馬県観光物産国際協会
実施時期	令和6年度～令和7年度
継続見込	令和8年度以降完成したプランを売り込み、事業者による自走を目指す。
アウトプット 目標	令和7年度 モデルツアー実施回数 2件
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（県費） 4百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
（事業番号3-②）	
事業名	電動バスの利便性強化事業
事業内容	現在、上州富岡駅及び駅近くの無料駐車場から、まちなかの各所を回りながら富岡製糸場をつなぐ低速電動バスが観光客を乗せて走っている。無料駐車場や駅から富岡製糸場までは徒歩20分～15分ほどかかるので、様々な観光客のニーズのために、求められる移動手段である。現在、案内人が添乗し、まちなかのガイドを行っている。 外国人観光客を含めすべての観光客の目にとまるような案内を整備し、また、案内人の研修を行い、富岡製糸場へのアクセス手段としての利便性、魅力を向上させる。

	<年度別計画> ・令和4年度 現状の調査、整備内容の計画検討 ・令和5年度 案内看板等の整備、案内人の研修実施
実施主体	富岡市（観光交流課）
実施時期	令和4年度～令和5年度
継続見込	事業期間終了後は、富岡市が維持管理をします。
アウトプット 目標	電動バス利用者数 25,000 人を目標とする。
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：1百万円（市費） 2百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号3－③）

事業名	旧葎塚製糸場における富岡製糸場に関わる説明強化事業
事業内容	富岡製糸場の正門近くに、明治9年設立の民間器械製糸工場の遺構である旧葎塚製糸場が建つ。創業者が富岡製糸場の設立に深く関わった人物で様々な点で富岡製糸場と縁の深い旧製糸工場である。現在、整備が済み公開されており、現在屋内では旧葎塚製糸場についての展示説明が行われているが、富岡製糸場との関りについての説明が不足している。立地的に富岡製糸場への来訪者が多く立ち寄る場所であり、富岡製糸場の価値を適切に理解してもらうためにも、旧葎塚製糸場において適切に説明することは重要である。 ついては、富岡製糸場との関りについて深く適切に多言語で行い、富岡製糸場の価値づけ向上を行う。現状の展示解説がパネルによる文字説明が中心であるので、動画など映像コンテンツを制作、展示を行う。 <年度別計画> ・令和4年度 説明内容・方法の検討 ・令和5年度 コンテンツ制作 ・令和6年度 展示整備、公開開始
実施主体	富岡市（観光交流課）
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	完成後は富岡市が維持管理を行い事業を継続する。
アウトプット 目標	令和6年度に活用開始。
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（市費） 4百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

（事業番号4－①）

事業名	県内温泉地宿泊施設等との富岡シルク製品を活用したコラボレーション事業
-----	------------------------------------

事業内容	群馬県を訪れる多くの観光客が滞在する宿泊施設と、富岡シルク製品を活用した連携事業をすることで、富岡製糸場への誘客を狙う。 具体的には、宿泊施設の売店に既存の富岡シルク製品（ストール、ネクタイやシルク石鹸など代表的なもの）を置いてもらう、また、部屋に置かれるアメニティの中にシルク石鹸を入れてもらうなど、すぐに実現可能性の高い連携を進める。さらに、例えば、富裕層向けの高級宿泊施設に寝具や寝間着などを富岡シルク製品でそろえた特別室を設けるなどの特別プロジェクトを検討し、実現を目指す。 <年度別計画> ・令和4年度 プロジェクトの調査・検討、試作品製造 ・令和5年度 試作品製造、実証実験に基づく再検討 ・令和6年度 実施 【補助事業】 文化庁「観光再開・拡大に向けた文化観光コンテンツの充実事業」 ・申請者 一般社団法人富岡シルク機構 ・事業名 世界遺産と富岡シルクを資源とした高付加価値化事業 ・実施年度 令和4年度 ・実施事業内容 富岡シルク商品及びシルクギャラリー（売店）の見せ方（コンテンツ）の磨き上げ、富岡シルク製品の開発・販売
実施主体	富岡シルク推進機構
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	事業終了後は富岡シルク推進機構が事業を継続する。
アウトプット 目標	シルクルーム設置プロジェクトの連携 1 宿泊施設
必要資金 調達方法	9百万円（内訳：3百万円（市費） 6百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	
(事業番号5-①)	
事業名	富岡市観光HP（富岡製糸場HP）のリニューアル事業
事業内容	多くの人が旅行へ行く前に訪問先の情報をインターネットで検索する時代にあって、観光施設のHPの出来栄は旅行者の行動を左右しかねない重要なものである。現行は富岡製糸場も富岡市の観光情報の一つとして紹介される構成であることから、より富岡製糸場の魅力を前面に押し出した構成にリニューアルすることで、より観光客目線にたった利便性の高いHPに刷新する。 <年度別計画> ・令和4年度 計画の検討 ・令和5年度 設計、業者選定、制作、実証的实施、見直し修正、完成

実施主体	富岡市観光協会（富岡市富岡製糸場課）
実施時期	令和４年度～令和５年度
継続見込	事業期間終了後は、富岡市から富岡市観光協会への負担金事業分補助金として財源を確保し継続。
アウトプット 目標	令和５年度中のＨＰリニューアル
必要資金 調達方法	６百万円（内訳：２百万円（市費）４百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号５－②）

事業名	国内外へのプロモーション戦略事業
事業内容	現在、富岡製糸場の宣伝ＰＲ活動は製糸場の職員がＨＰやＳＮＳで行っている。アクセスされるのを待っているだけで、積極的なアウトリーチができていない。確実な誘客のために、プロモーション専属の人材を育成し、有効な宣伝ＰＲ活動について専門家の指導を受けるなどし、効果的な方法で実施する。 <年度別計画> ・令和４年度 現状の分析、実施計画の内容検討 ・令和５年度 専門家によるコーチング、人材育成、事業実施 ・令和６年度 人材育成、効果検証、見直し実施
実施主体	富岡市観光協会
実施時期	令和４年度～令和６年度
継続見込	事業実施後は富岡市観光協会が事業を継続
アウトプット 目標	現行は富岡製糸場も富岡市の観光情報の一つとして紹介される構成であることから、より富岡製糸場の魅力を前面に押し出した構成にリニューアルすることで、より観光客目線にたった利便性の高いＨＰに刷新する。
必要資金 調達方法	９百万円（内訳：３百万円（市費）６百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号５－③）

事業名	西置繭所多目的ホールのユニークベニューとしての活用推進事業
事業内容	富岡製糸場の国宝「西置繭所」は令和２年に保存整備工事が完了し公開活用が始まったが、１階に整備された多目的ホールは、活用開始がコロナ禍中であり、また、ＰＲ不足も重なって、認知が不十分である。世界遺産・国宝である旧繭倉庫の中に整備された多目的ホールであり、耐震補強用の鉄骨を骨組みとした壁と天井がガラス製の、まさしくユニークベニューであることから、群馬県の国際コンベンションセンターであるＧメッセ群馬とも積極的に連携し、一層の活用を進めたい。そのために、活用を

	推進するためのプロジェクトをたちあげ、プロモーション活動ができる人材の育成を図ることで、富岡製糸場での学会開催や展示会の開催など、ホール利用の活性化と、文化財を活用した誘客に努める。 <年度別計画> ・令和4年度 計画検討、体制構築 ・令和5年度 人材育成 ・令和6年度 人材育成、セールス展開
実施主体	富岡市観光協会
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	事業期間終了後は富岡市観光協会の自主事業として継続。
アウトプット 目標	令和6年度、西置繭所ホール有料貸出件数36件（月あたり3件）
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（市費） 4百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

事業番号5－④)

事業名	誘客シナリオの製作
事業内容	「富岡」が日本近代化の原点であり、女性活躍の出発点となった歴史的価値を国内外に発信するための魅力あるシナリオを作り上げる。富岡製糸場自体が来訪目的ではなく、「富岡に訪れる」という導線を形成し、富岡製糸場を、日本近代化の原点の地「富岡」の象徴として位置付け、ブランディングを行う。 【日本近代化は富岡から】【女性活躍は富岡から】【技術革新は富岡から】 <年度別計画> ・令和4年度 計画の検討、業者の選定、設計 ・令和5年度 事業実施開始 ・令和6年度 効果検証、見直し実施
実施主体	富岡市観光協会
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	令和6年度に完了
アウトプット 目標	3つの誘客シナリオの完成、シナリオを活用したツアーの催行
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（市費） 4百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号6－①)

事業名	新たなガイドツアーの待合及び出発場所としての利便性向上事業
-----	-------------------------------

事業内容	本計画で造成する観光客向けの新たなガイドツアーに参加する観光客の待合場所として上州富岡駅の既存の観光案内スペースを活用するため、看板等の整備をする。 観光客受け入れに際し、物理的なコロナ感染症対策を講じるとともに、ガイドツアーの案内看板及びツアーの内容・ルート等について説明するパネル等の製作・設置。また、ツアー開始を待つ観光客が利用する椅子の設置など、待合室を利用するツアー参加者の利便性を向上させる。 令和4年度 必要設備の調査検討 令和5年度 感染症対策物品、椅子、看板等の発注、設置
実施主体	富岡市（観光交流課）
実施時期	令和4年度～5年度
継続見込	事業終了後は富岡市が事業を継続する。
アウトプット 目標	上州富岡駅を通過する観光利用者と駅東無料駐車場を利用する観光客のゲートウェイとしての機能強化
必要資金 調達方法	1. 2百万（内訳：0.4百万円（市費） 0.8百万円 補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号6－②）

事業名	東置繭所の売店及びシルクギャラリーの整備事業
事業内容	国宝「東置繭所」の1階には、富岡製糸場及び富岡市と関りのある土産物を販売する売店、また、富岡産の繭を原料に使用した富岡シルク製品のギャラリー兼ショップが設置されているが、どちらの空間も世界遺産・国宝に相応しい洗練されたスペースにはなっていない。元繭倉庫である東置繭所の特徴や空間の雰囲気を活かしつつ展示用の什器の選択や配置、内装を検討し、洗練された空間に磨き上げ、富岡製糸場の魅力向上につなげる。 令和4年度 計画の検討、設計 令和5年度 計画の検討、設計 令和6年度 調査・設計・各委員会との調整等 令和7年度 南側リニューアル 令和8年度 北側リニューアル
実施主体	富岡市（富岡製糸場課）
実施時期	令和4年度～8年度
継続見込	事業期間終了後は、入場料収入を財源とし、富岡市が維持管理します。
アウトプット 目標	令和4年度に計画の検討、設計を行い、令和5年度に世界遺産・国宝内のミュージアムショップとして相応しい空間にリニューアルする。
必要資金 調達方法	12百万円（内訳：4百万円（市費） 8百万円（補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和4年度	1. 5百万円	事業番号4-①	1. 5百万円	0. 5百万円（市費） 1百万円（文化庁補助金）
令和5年度	73. 1百万円	事業番号1-①	22. 5百万円	7. 5百万円（市費） 15百万円（文化庁補助金）
		事業番号1-③	2百万円	2百万円（県費）
		事業番号2-①	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-②	4. 5百万円	1. 5百万円（市費） 3百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-③	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-④	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-⑤	4. 5百万円	1. 5百万円（市費） 3百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-⑥	2. 4百万円	0. 8百万円（県費） 1. 6百万円（文化庁補助金）
		事業番号3-②	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号4-①	7. 5百万円	2. 5百万円（市費） 5百万円（文化庁補助金）
		事業番号5-①	6百万円	2百万円（市費） 4百万円（文化庁補助金）
		事業番号5-②	4. 5百万円	1. 5百万円（市費） 3百万円（文化庁補助金）
		事業番号5-③	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号5-④	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号6-①	1. 2百万円	0. 4百万円（市費） 0. 8百万円（文化庁補助金）
令和6年度	65百万円	事業番号1-①	30百万円	10百万円（市費） 20百万円（文化庁補助金）
		事業番号1-③	2百万円	2百万円（県費）
		事業番号2-①	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-②	4. 5百万円	1. 5百万円（市費） 3百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-③	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-④	3百万円	1百万円（市費） 2百万円（文化庁補助金）
		事業番号2-⑥	3百万円	1百万円（県費） 2百万円（文化庁補助金）

		事業番号2－⑦	3百万円	1百万円（県費）	2百万円（文化庁補助金）
		事業番号3－③	3百万円	1百万円（市費）	2百万円（文化庁補助金）
		事業番号5－②	4. 5百万円	1. 5百万円（市費）	3百万円（文化庁補助金）
		事業番号5－③	3百万円	1百万円（市費）	2百万円（文化庁補助金）
		事業番号5－④	3百万円	1百万円（市費）	2百万円（文化庁補助金）
令和7年度	44. 9百万円	事業番号1－①	12百万円	4百万円（市費）	8百万円（文化庁補助金）
		事業番号1－②	12百万円	4百万円（市費）	8百万円（文化庁補助金）
		事業番号1－③	2百万円	2百万円（県費）	
		事業番号2－④	3百万円	1百万円（市費）	2百万円（文化庁補助金）
		事業番号2－⑥	2. 4百万円	0. 8百万円（県費）	1. 6百万円（文化庁補助金）
		事業番号2－⑦	1. 5百万円	0. 5百万円（県費）	1百万円（文化庁補助金）
		事業番号3－①	6百万円	2百万円（県費）	4百万円（文化庁補助金）
		事業番号3－③	3百万円	1百万円（市費）	2百万円（文化庁補助金）
		事業番号6－②	3百万円	1百万円（市費）	2百万円（文化庁補助金）
令和8年度	50. 9百万円	事業番号1－②	36百万円	12百万円（市費）	24百万円（文化庁補助金）
		事業番号1－③	2百万円	2百万円（県費）	
		事業番号2－⑥	2. 4百万円	0. 8百万円（県費）	1. 6百万円（文化庁補助金）
		事業番号2－⑦	1. 5百万円	0. 5百万円（県費）	1百万円（文化庁補助金）
		事業番号6－②	9百万円	3百万円（市費）	6百万円（文化庁補助金）
合計	235. 4百万円				

8. 計画期間

	7-1-1	7-1-2	7-1-3	7-1-4	7-1-5	7-1-6
令和 4 年度	1-①展示コンテンツの 検討 1-②リニューアル内容 の検討	2-①計画の調査、 検討 2-②体制の検討、 人材育成 2-③調査・計画 2-④計画の検討 2-⑤計画の検討	3-②計画の検討 3-③計画の検討	4-①調査・検討、 試作品製造	5-①計画の検討 5-②実施計画の 内容検討 5-③計画検討、体 制構築 5-④計画の検討	6-①必要設備 の調査検討 6-②計画の検 討、設計
令和 5 年度	1-①仕様の決定、 コンテンツ制作 1-②リニューアル内容 の検討 1-③、「絹ラボ」、 新コンテンツの 制作	2-①屋外 Wi-Fi 整備 2-②専門人材の 雇用、プロモーシ ョン検討 2-③必要性が高 いものから順次 実施 2-④ガイド養成 2-⑤袴等の製作 2-⑥企画展開催 (3 資産) 2-⑦関係機関と 調整	3-②看板整備・研 修 3-③コンテンツ 制作	4-①実証実験に 基づく計画検討	5-①設計、制作、 実証的实施、見直 し修正、完成 5-②専門家によ るコーチング 5-③人材育成 5-④事業実施開 始	6-①感染症対 策物品、椅子・ 看板等の設置 6-②計画の検 討、設計
令和 6 年度	1-①展示設備製 作 1-②調査・設計・ 各委員会対応 1-③「絹ラボ」、 新コンテンツの 制作	2-①屋内 Wi-Fi 整備 2-②人材育成 2-③音声ガイド のコンテンツ制 作 2-④人材育成、ガ イドツアー催行 2-⑥10 周年企画 展開催(世界遺産 日本遺産等) 2-⑦Japan Silk Net 構築等	3-①周遊ルート、体 験コンテンツの検討等 3-③展示整備、公 開開始	4-①実施	5-②人材育成、効 果検証 5-③人材育成、セ ールス展開 5-④効果検証	6-②設計・調 査、委員会対応

令和 7年度	1-①活用開始 1-②南側リニュー ーアル 1-③「絹ラボ」、 新コンテンツの 制作	2-④人材育成 2-⑥企画展開催 (岡谷地域) 2-⑦調査研究、関 係機関との連携	3-①モデル事業 実施、事業評価等			6-②南側リニ ューアル
令和 8年度	1-②北側リニュー ーアル 1-③「絹ラボ」、 新コンテンツの 制作	2-⑥企画展開催 (日本のシルクロ ード) 2-⑦調査研究、関 係機関との連携				6-②北側リニ ューアル